

2024（令和6）年度

FD 活動報告書

宇都宮共和大学 子ども生活学部

自己点検・評価推進部会

FD 部会

2025年4月

目 次

I. はじめに.....	1
II. 2024年度 学生による授業改善アンケート	2
II-1. 教員の基本的姿勢と学生への共通した指導	2
II-2. 学生による授業改善アンケート結果	2
III. 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組.....	5
III-1. 各教員の取組.....	5
III-2. まとめ.....	20
IV. FD・SD研修	21
IV-1. FD・SD研修	21
IV-2. FD研修	26
V. 教員相互授業参観.....	40
VI. まとめ	57

I. はじめに

宇都宮共和大学子ども生活学部
学部長 杉本 太平

宇都宮共和大学子ども生活学部では、学部開設（平成 23 年 4 月）と同時に、「宇都宮共和大学自己点検・評価委員会規定」に基づき自己点検評価・委員会を設置し、「宇都宮共和大学自己点検・評価実施計画」を策定している。自己点検・評価推進部会の中に、FD 部会を設置し教員の教育活動、研究活動の質向上、研究倫理等、教育全般の改善のための研修活動を行ってきた。また、近年では内部質保証の観点から、本学部の教育目的を達成するために本委員会においても PDCA サイクルに基づき委員会活動の計画と実行のチェックを行い、次年度への課題を明確にしている。

本報告書は、第 4 期の大学評価とも関連する学習成果の可視化や学修者本位の観点からの授業改善アンケートに基づく教育の質向上、教員の相互授業参観などに重点を置いた 2024 年度 FD 活動の成果をまとめたものである。

1. 学生による授業改善アンケートに基づく教職員の取り組み

(1) 2024 年度学生による授業改善アンケートに基づき、2025 年度新学期を迎えるにあたり、以下の 2 点について全教員が共通認識を持って教育活動にあたることを確認した。

- 1) 教員の基本的姿勢
- 2) 学生への共通した指導

(2) 2024 年度学生による授業改善アンケート結果を分析し、それに基づき次年度へ向けての教員の授業改善の取り組みを各自「授業改善に関する報告書」としてまとめた。アンケート回答率に関しては、高回答率を維持するために、組織的な対応策と学生への本アンケートの意義周知などの取り組みについて工夫・改善を行った。

2. 2024 年度 FD 研修会

2024 年度の FD 研修会は、第 1 回として「高等教育段階における合理的配慮」、第 2 回に「保育士養成倫理綱領について」、第 3 回に「研究倫理」、第 4 回に「令和 7 年度シラバスチェック」、第 5 回に「ポートフォリオ」を実施した。また、2024 年度の FD・SD 研修では、第 1 回として「組織におけるサイバー犯罪の傾向とセキュリティ対策について」、第 2 回に「キャンパス・ハラスメント防止啓発研修会」を実施した。

3. 教員による相互授業参観

授業改善の取り組みの一環として、他の教員の授業を参観し、感想や参観を踏まえての自分の担当授業における改善点を各自「教員相互授業参観報告書」としてまとめた。

II. 2024年度 学生による授業改善アンケート

II-1. 教員の基本的姿勢と学生への共通した指導

令和6年度 子ども生活学部授業改善目標より

令和6年4月5日

子ども生活学部 教員各位

学部長

令和6年度 子ども生活学部授業改善目標 —「学習成果」を学生が自覚できる授業改善を—

子ども生活学部では内部質保証及び自己点検・評価における授業改善目標に沿って、現在「学習成果の可視化」に向けての取り組みを進めております。令和5年度の「授業改善のためのアンケート」結果と専任教員の「授業改善アンケートに対するコメント」などを自己点検・評価推進部会および副学長・学部長・学科長とで内容を精査・検討し、その結果として令和6年度の授業改善目標を以下にまとめました。先生方には、本学部の教育の質向上に向けて今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 教員の基本的姿勢

- (1) 教員と学生、また、学生同士の互いの信頼関係をつくり、他者への尊重・共感など心地よい人間関係が形成できる授業環境をつくるのが大切です。
- (2) 毎回の授業の達成目標を示し、学生が自発的・積極的に授業に参加できる授業内容や展開の創意工夫をし、学習の成果としての学生の理解や気づきを言語化させ、肯定的なフィードバックを心がけてください。
- (3) 授業や教育活動に際しての学生の質問や意見に真摯かつ丁寧に向き合い、学習内容の理解が深まり、学びに対して前向きになれるような支援をお願いします。
- (4) 授業評価については公正・厳正に執り行い、安易に単位を与えるのではなく、到達目標の達成度を学生自身が自覚し、納得できるように指導してください。

2. 学生への共通した指導

- (1) 授業が学生生活の中で最も大切であることを周知させ、「休まない・遅刻しない」（過度のアルバイトへの注意喚起）のは当然のこととして、日々の学習態度や課題の提出などについても必要に応じて、学生の意識が改善するような指導をお願いします。
- (2) シラバスに準じて、毎回のねらいを周知した上で授業を行ってください。また、授業の予習・復習や課題等の授業外での学習活動の成果を学生にフィードバックし、学生自身の積極的・意欲的な学びの姿勢に繋げるようなご配慮をお願いいたします。
- (3) 特別な注意を要する学生については、担任及び学生指導委員会の教員とも連携・協働して、情報や指導上の配慮を共有しながら、学習支援ができるようにしてください。

学生の生活態度におけるマナー・ルールの厳守や学習に向かう意識の持ち方については、新学期のオリエンテーションなどで指導・注意喚起を行っております。「学習成果の可視化」の取り組みを通して、学生の意識改善に努めつつ、学生の意欲・態度の向上にむけて、共通した考え方で学生指導を工夫し実践していただくよう、よろしくお願いいたします。

II-2. 学生による授業改善アンケート結果

(1) アンケート実施期間

春学期:2024年7月5日(金)から8月10日(土)

(入力終了日:2024年8月3日(土))

秋学期：2024年11月8日（金）から2025年2月7日（金）
（入力終了期限：2025年1月24日（金））

（2）回答率

図1は、学生による授業改善アンケート回答率を2020年度からみたものである。2020年度は82.3%と低い水準であったが、2024年度は97.0%と過去最も高い水準であった。アンケート期間終了時点では、例年50%から60%であり、今年度も同じような状況であった。そのため、その後の回答督促指導を経て図1に示される最終的な回答率となっている。

2021年度の反省に、アンケート期間前に講義が終了してしまうので、授業時間内の実施ができない科目があるという意見があった。それを踏まえ、一昨年度より、春学期、秋学期ともにアンケート開始時期を1か月前倒しし、すべての講座で授業内実施が行えるようにした。

また、以前より、学生のアンケートへの意識と関心を高めるために、集計結果のフィードバックを学生に対して行ってはどうかという意見も出されている。

高い回答率は授業改善を行う上で必要不可欠であるため、初回調査の段階で、授業時間内に回答時間を設けるなどの工夫をしているが、今後も回答率の維持・向上の方策を検討していく必要がある。

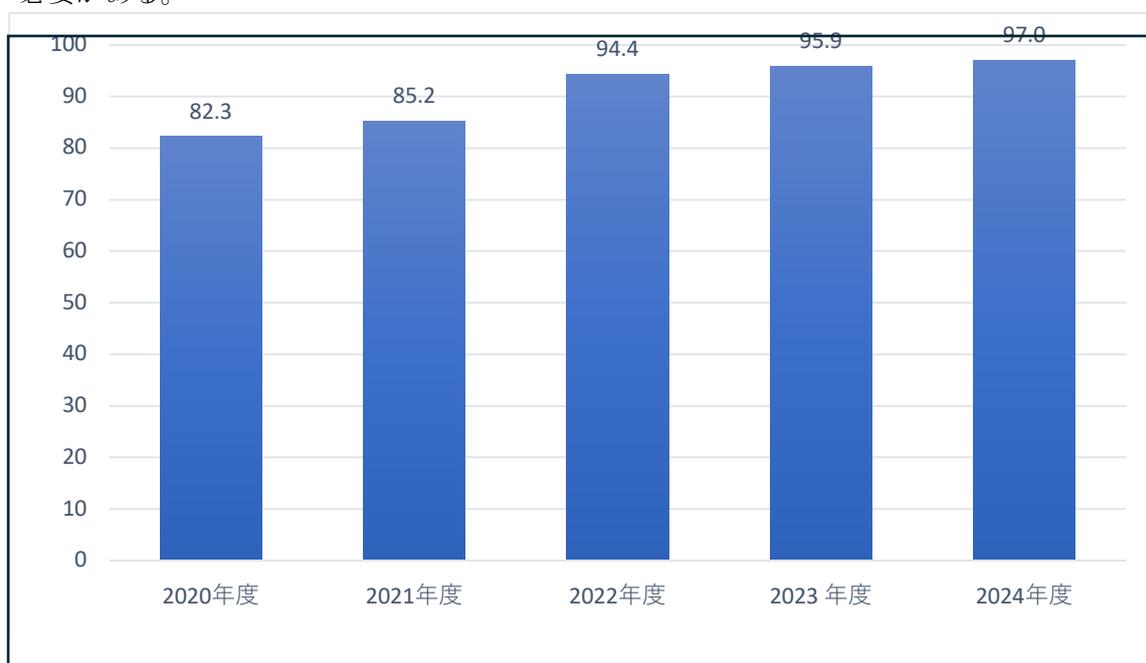


図1 学生による授業改善アンケート下の回答率 (%)

図2は、2022年度、2023年度、2024年度の3年間について、10の質問項目別に得点を示したものである。回答は5件法（「そう思う=5」「どちらかと言えばそう思う=4」「どちらとも言えない=3」「どちらかと言えばそう思わない=2」「そう思わない=1」）で行い、得点化した。得点が高いほど、肯定的な評価であることを示す。

2024年度の結果を見ると、「講義はよく聞き取れた」4.7、「授業の内容は理解できた」4.5、「知的関心・興味が深まった」4.6、「質疑応答の機会は適切だった」4.6、「マナーの悪い学生に対する指導は適切だった」4.5、「教材は適切だった」4.6、「積極的な関心を持っている」4.5、「マナーを守った」4.6、「受講してよかった」4.5であり、これらの項目については、昨年度同様または0.1%増加していた。おおむね学生の評価は良好である。

「授業の予習・復習をした」は、3年連続4.2と低い結果であったが、3年前、4年前（4.0、3.9）と比較するとわずかながらも増加しており、予習・復習のシラバスへの記載や教員も意識的に課題を出すなどして予習・復習を習慣化するようにしていることなどが少しずつ定着してきている要因として考えられる。家庭での学習習慣が身につけていない学生も少なくなく、ただ課題を出すだけでは学習に結びつかない学生も多い。経済的理由からアルバイトが必要であり、十分な学習時間を確保することが難しい学生もいる。授業外で学生の学習をどのようにサポートするか、引き続き検討する必要がある。

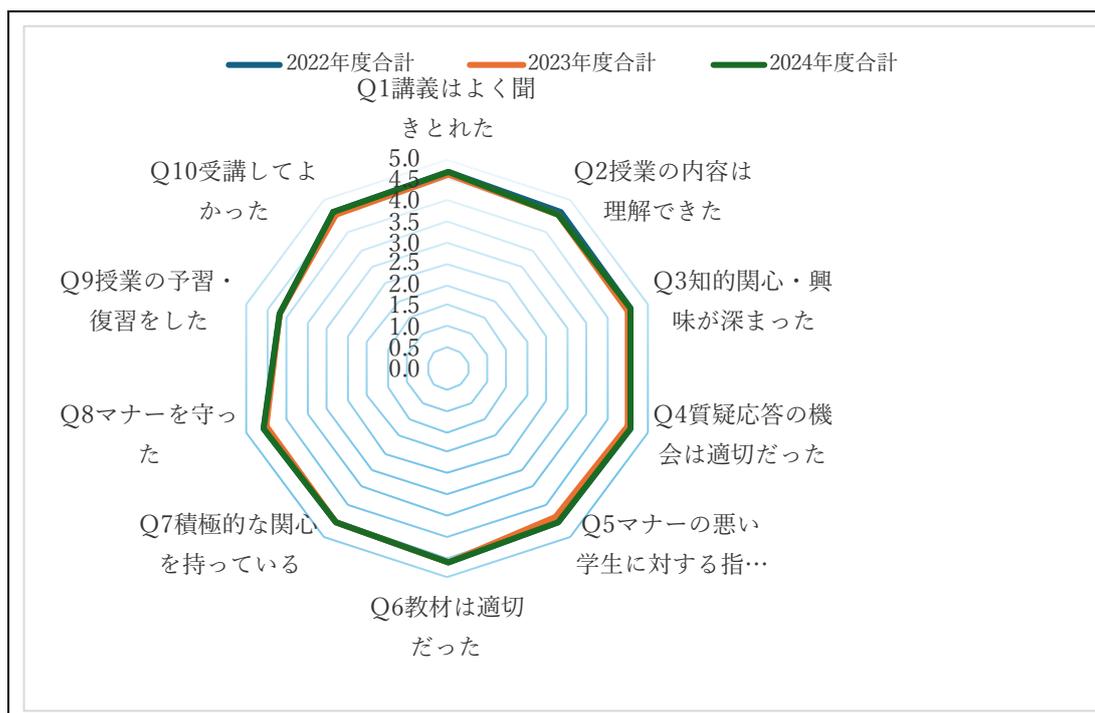


図2 学生による授業改善アンケート結果

【参考資料1】 各項目の経時変化

	Q1講義はよく聞き取れた	Q2授業の内容は理解できた	Q3知的関心・興味が深まった	Q4質疑応答の機会は適切だった	Q5マナーの悪い学生に対する指導は適切だった	Q6教材は適切だった	Q7積極的な関心を持っている	Q8マナーを守った	Q9授業の予習・復習をした	Q10受講して良かった
2011年度合計	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	3.5	4.4
2012年度合計	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	3.5	4.4
2013年度合計	4.4	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	3.8	4.4
2014年度合計	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	3.6	4.3
2015年度合計	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.3	4.3	3.8	4.5
2016年度合計	4.4	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	3.6	4.3
2017年度合計	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	3.7	4.2
2018年度合計	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	3.9	4.3
2019年度合計	4.6	4.4	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5	3.9	4.4
2020年度合計	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4	4.6	4.5	4.5	3.9	4.6
2021年度合計	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	4.6	4.0	4.6
2022年度合計	4.7	4.6	4.6	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6	4.2	4.6
2023年度合計	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4	4.6	4.5	4.5	4.2	4.5
2024年度合計	4.7	4.5	4.6	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6	4.2	4.6

III. 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組

III-1. 各教員の取組

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	河田隆
担 当 科 目	(*担当している科目をすべて記入してください) 幼児体育、教材研究(運動と健康)、レクリエーション概論、野外活動Ⅰ、 現代教養講座Ⅳ、卒業論文
1.	今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 (1) 講義は教員側が一方方向で進めるのではなく、学生の理解を確認するうえでも 質疑応答の場を多くして、双方向の関係をつくりながら授業展開を意識的に進めた。 (2) 講義内容は、聞かせるだけで進めるのではなく、時には、作業活動をさせながら興味関心を継続させるための工夫も考慮して授業を進めた。 (3) 出席確認は学生ひとり一人名前を呼び、視線を合わせ確認を取りながら行った。
2.	学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 授業アンケートの結果から、教員の伝達表見は良く聴きとれており、理解もされていた。そのため関心も興味も増していったようである。また、授業環境に関しても環境破壊をする学生の行為に関して適切に指導を行い授業環境を良い状態で保たれていたようだ。
3.	今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。 シラバス通りに授業進行はできなかった部分があったことは反省する点である。学生の授業に対するの準備があるのでシラバス進行を重視して授業展開が大切である。
4.	クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。 支援案作成、野外活動しおり作成、そのほか課題等、適宜使用した。学生が各自で操作する中で各々が ICT の活用方法を体得していた。ほぼすべての学年で使いこなしているように感じる。
5.	今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 視覚刺激であるパワーポイントに関して工夫を加えること。また、学習の成果の可視化が必要であるので授業の最後に振り返りを学生にさせる工夫をしたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	杉本 太平
担 当 科 目	人間とは何か・人間と心理・コミュニケーションの心理学・保育相談・保育内容人間関係・保育・教職実践演習・子ども家庭支援の心理学・子ども家庭支援論・海外保育研修Ⅰ・教育福祉ボランティア・卒業研究Ⅰ・Ⅱ
	<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。</p> <p>(1) オリジナルなアクティブ・ラーニング授業手法として、事例研究や行為法を用いた演習の実施方法と内容について、特に事例研究法の教材の制作や学生の相互学習の手法・学びへのフィードバックに重点を置いた改善を行った。</p> <p>(2) 新たに作成したレポートなどの作成方法や評価基準についての配布資料を実際に活用して、学生のレポート達成度を高める工夫を行った。</p>
	<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。</p> <p>レポートや事例研究などの課題提出のための自己学習を段階的に積み上げていくように昨年度から工夫・改善をしているが、内容的にも課題的にもレベルが高く、ハードになっていると考えていたが、授業アンケート結果を見る限り、学生たちは比較的内容に満足していると認められる。今後も継続した工夫・改善に努めたい。</p>
	<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。</p> <p>(1) 概ねシラバスに沿った授業を実施し、授業目標を達成できたと考える。</p> <p>(2) 授業最初に当該授業のねらい・到達目標を明確に伝え、コメントシートを通じてフィードバックも適切に実施できていたが、今後の課題としては、学生自身の授業目標の到達度を自己評価できるように改善したい。</p>
	<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。</p> <p>クロムブックの活用は授業計画や資料の提示、授業に関する課題の制作等に用いている。また、調べ学習課題を通して、学生が協力して調査に当たれるような改善を試みて、レポート制作もできるようにした。依然として、授業中一部の学生で授業外の用途に使用している状況が散見されており、授業で使用しない場合は仕舞わせるなどの制限を行っている。</p>
	<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。</p> <p>今年度の入学生で顕著にレポート課題の多い授業を敬遠する傾向がみられる。「人間とは何か」「人間と心理」で1年生にレポート制作のための授業内容や配布教材の工夫・改善に努め、選択科目としては多くの履修生がいたのが、今年度は激減している。実際に受講した学生はそれなりの成果が認められるので、「書く力」をどのように向上させていくか、全体的な課題であると考えます。</p>

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	桂木奈巳
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 生活講座Ⅰ、生活技術演習Ⅰ・Ⅱ、保育内容環境、子どもと自然環境、子どもと生活演習、フィールドワークⅠ、保育内容総合演習Ⅲ・Ⅳ、卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次春学期科目と免許資格の必修科目については、コメントシートの内容が薄い学生には再々提出を促し、現状に甘んじないようにした。 ・フィールドバッグを丁寧に行った。
	<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の自己評価は全体的に高いと思った。学生のレベルは教員の求めには達していない例が多くあるように感じた。 ・学生の授業への取り組みは悪くはないが、自ら他領域に応用する力が欲しい。学びの深化につながっていない。授業外の学習をもう少し増やせるようにしたい
	<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに沿って実行できた科目とそうでない科目がある。（自然系が多いため）天候に左右され、行中止等による内容の変更が生じた。しかし、「到達目標を達成させる」ことが大切であるため、必ずしもシラバスに沿う必要はない。変更の理由を自分自身で把握し、到達目標に導くことができればよいと考える。可能であれば翌年のシラバスに反映させる努力をするのが重要だと思う
	<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許資格必修科目については、手書きを多くした。それ以外の授業科目は提出物等はクロムブックを利用した。 ・クロムブックを持参しない学生が増えつつある印象である（スマホで入力をしている） ・スプレッドシートを学生と相互に利用したため、学生にとっては他グループでの内容が参考になったようである ・クロムブックを利用させると、記載内容の質が低下する傾向にある。
	<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、授業内でICTを効果的に使う手法を検討したい。手書きも大切であるため、この住み分けの方法を検討したい ・学生の力量を早期に見極め、引き続き効果的な授業内容を検討したい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	田 淵 光 与
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 保育指導法Ⅱ、保育・教職実践演習、保育内容総合演習Ⅳ、保育内容健康、保育内容言葉、保育・教育課程論、環境と資源、教育実習指導
1.	今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 アクティブ・ラーニングの手法で、学生が自ら課題の解決策を見出せるような教材の準備。学生が思考の過程と結果を記録できるようなワークシートの作成。 保育の実際に触れることができるカリキュラムにした。
2.	学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 概ね、ねらいに達成したと思う。保育。教育課程論では、内容の難しさもあるが、課題の意味が分からなかったという意見もあった。丁寧な説明を心掛けているが、今後は個別の質問について推奨するなどの配慮をしていく。
3.	今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。 シラバスの内容に沿った運営を心掛けたが、選択科目においては、受講した学生の得意分野を生かした提案などを取り入れながら、柔軟に運営したこともあった。学生には好評であった。学生が、自ら課題を掴み、解決していく学習が成果を上げる分野でもあった。総括すると、科目のねらいに達成できたと考える。保育・教育課程論では、内容の複雑さに加え、理論的な部分もあるので、全体を通してカリキュラムの編成と実施について理解が深まるようにしたが、毎時の学修の積み上げが難しいところもあった。
4.	クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。 課題の提出や学びの記録としてのポートフォリオ作成などに活用した。 卒業研究指導にも活用したが、紙面での提出においてドキュメントでは図表などの挿入が難しく、PCを使用した。
5.	今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 3の記載に同じ。 休みがちな学生には、学習内容が積みあがっていく科目において内容の理解に遅れが出るため、事後に資料を取りに来るといった指導を徹底していきたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	蟹江 教子
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 社会福祉 子どもと地域福祉Ⅰ 職業と家庭生活の設計 社会学 フィールドワークⅡ 文章表現Ⅰ・Ⅱ 研究方法の基礎Ⅰ・Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 抽象的な概念はできるだけ事例を説明することにより、学生の理解がスムーズに進むようにつとめた。動画や新聞記事などもできるだけ利用するようにした。 一部の授業では学期末テストを実施するなどして、学生の知識の定着度を確認した。できるだけ現場を知ることができるように施設等の見学や職員の方々との意見交換を行うようにした。</p>
	<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 漢字の読み書きに困難を抱えている学生も散見され学力差も大きいため、すべての学生に納得してもらえらる授業は容易ではないが、心に残る授業を行いたい。</p>
	<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。 授業途中で評価方法を変更して学期末テストを実施したことは申し訳なく思う。 来年度からはシラバスにそって行うようにしたい。</p>
	<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。 ・コメントシートやレポートの提出で利用したが、提出日時の記録が残るため、学生の指導が行いやすくなった。特に期日を守らない学生については指導を徹底できるようになった。</p>
	<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 引き続き、内容を丁寧にかみ砕いて具体的な事例等を含めて説明することにより、学生の理解を促したい。</p>

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教員名	月橋 春美
担当科目	（*担当している科目をすべて記入してください。） レクリエーション演習Ⅰ・Ⅱ 野外活動Ⅰ・Ⅱ スポーツと健康Ⅱ 保育 内容表現 保育内容総合演習Ⅱ・Ⅳ
<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 レクリエーション演習Ⅰ・Ⅱの授業は、アリーナを中心に授業を行った。演習Ⅰは、例年、最初は学生とのコミュニケーションを図ることを目的に実技を中心に行い、その後、学生同士のコミュニケーションを図ることを目的とした実技内容へと展開している。演習Ⅱは、グループでの創作活動が中心となるため、今年度も学生主体でグループ作りを行った。多くのグループは、お互いの考えや意見を聞き良い雰囲気での発表にまでつながり、達成感が得られていたようであったが、中には、今年度もメンバー同士の考え方や意見がまとまらず、満足のいく発表ができなかったグループも見られた。年々、グループ作りの難しさを感じる。次年度も、グループ内での関係作りをしっかりと行った後に発表へと授業を展開していきたいと思う。また、引き続き、口頭説明だけでなく実際に見本も示し、その都度、学生が理解できたかを目で見て確認していくことを心掛けたい。</p>	
<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 今年度も、学生たちは内容をよく理解できたというようである、学生のレポート内容や発言・発表内容からも、学生たちが比較的理解できていたと感じられた。</p>	
<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。 今年もシラバスに沿って授業を組み立てることを心掛けたが、学生の理解度や授業環境の変化によって、内容を変更したり、修正したりすることはあった。学生へのフィードバックの時間が十分に確保できなかったことが反省点である。</p>	
<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。 クロムブックの活用は、あまり行わなかった。次年度、連絡事項を伝える方法としては活用したいと考える。また、授業課題提出で使用する場合は、期限以降は受け取れないなどの設定をしたい。</p>	
<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 来年度も、ICTを授業に取り入れ、効果的に活用する。また、学生が主体的かつ積極的に楽しく授業に参加できる環境づくりにより努める。</p>	

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	市川 舞
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 保育原理、保育内容総論、教育実習、保育内容総合演習Ⅰ、保育内容総合演習Ⅲ、保育内容総合演習Ⅳ、子ども理解と評価、子どもとおもちゃ、卒業研究指導、保育教職実践演習
<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 講義科目においては、具体的な子どもの姿と保育の理論を結びつけて理解できるよう、DVD など視覚教材や事例を多く取り入れる。演習授業では、グループの友達と試行錯誤し、創意工夫しながら学ぶ機会を設け、学生同士が互いに語り合い、関わり合いながら学ぶ機会を多く設け、自分の気づきや考えを言語化し、見方考え方を広げたり深めたりできるように心掛けた。</p>	
<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 各科目で学科の平均点を上回っており、おおむね好評価であった。学生のコメントからも、1. に記述したように具体的な映像や演習課題に出会い、語り合ったことにより学びを実感できたようである。授業方法としてのアクティブ・ラーニングが、学生の学びの実感につながるが見いだされた。一方、授業の予習・復習については、毎回課している授業の振り返りレポートや教材準備などが該当するものの、学生自身が予習・復習と認識していないようで、スコアは低い傾向にあった。設問と教員が課した課題の連なりを繰り返し説明する必要を感じた。</p>	
<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。 上述のように、授業方法としてアクティブ・ラーニングを重視した。学生の気づきを掘り起こしたり、繋げたりしながら集団として学びあうことを重視したため、話しの方向性によって、シラバスに記載した授業内容の順番が前後したり、引き伸ばされたりすることが多々生じたものの、授業内容についてはシラバスに記載した内容を網羅した。</p>	
<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。 すべての科目で Classroom を活用した。主に、授業に関する連絡や提出物の管理などに用いた。ただし、授業中に資料の閲覧やスライド作成などクラスで一斉に使用すると Wi-Fi が不安定になりがちであった。毎年、事務局が Wi-Fi 環境を整えて下さっているが、環境の整備を継続いただきたい。</p>	
<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 語り合うことの有効性を確認できたので、さらに「書く」力の充実を図りたい。</p>	

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	星 順子
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 乳児保育Ⅰ・乳児保育Ⅱ、現代の教養講座Ⅰ、保育実習指導Ⅰ・保育実習指導Ⅱ、保育実習事前事後、子育て支援、グローバルコミュニケーション
<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の初回では、シラバスを用いて授業の到達目標や評価の観点を伝えた。また、毎回の授業で到達目標に沿ったねらいを伝え、学びの観点を意識させた。 ・「乳児保育」や「子育て支援」では、「保育実習指導」との科目間連携を図った。実践場面の動画や写真の使用、事例検討や演習を含め、保育場面のイメージが具体的に持てるように工夫した。 ・保育の現状や課題の理解が深められるように、保育現場の保育者、外国人留学生等と当事者から学ぶ機会を作った。 	
<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。</p> <p>おおむね充実していたが、講義科目では「質疑応答の時間をつくった」の評価が低い科目がある。今後は、学生の理解度の把握とタイムマネジメントに気を付けながら、質疑応答の時間を確保していきたい。</p>	
<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。</p> <p>シラバスに沿った展開を心掛けたが、学生の希望や理解度によって、若干の変更もあった。変更の場合には、その理由を学生に説明することを心掛け、クラスルーム等でも変更内容について伝達した。</p>	
<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。</p> <p>グループワークにおける発表資料の作成、シラバスの確認や課題提出、授業連絡、授業課題のフィードバックとして利用した。</p>	
<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論と実習での実践が往還するように授業の組み立てや教材等を工夫したい。 ・質疑応答がしやすい雰囲気づくりを意識し、その時間の確保にも努めたい。 	

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	石本真紀
担 当 科 目	(*担当している科目をすべて記入してください) フィールドワークⅡ、実習事前事後演習、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、保育実習指導Ⅰ（施設）、保育実習指導Ⅲ（施設）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅲ（施設）、卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業研究、児童家庭福祉
1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 授業の初回に科目の概要、到達目標、評価基準について伝え、各回で授業のねらいと内容を明確にし、授業を展開した。子どもを取り巻く課題を身近に感じられるようテーマに視聴覚教材の視聴やペアワークなどを取り入れた。また、社会的養護Ⅰ・Ⅱと保育実習の関連性を伝えつつ、社会的養護の現場で働く行政職、施設職員をゲスト講師として招き、子どもと家庭を支援することの重要性を意識できるように心がけた。	
2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 講義や実習を通して、児童福祉施設で働く保育士の仕事に関心を持つようになったという自由記述が多く、子どもや障害のある方の暮らしや支援が必要な家庭の生活課題について多くの学生が関心を持つようになったようである。予習や復習に関する項目が上がったが、次年度も学生が主体的に学ぶ環境を整えていきたい。講義科目は法律や制度など伝える内容が多く、学生の質問に十分に答える機会が作れてない状況があった。	
3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。 保育士必修科目においては必要な教授内容を網羅し、概ねシラバスにそって実行できた。しかしながら、授業内容のフィードバックについては口頭での追加説明が多く、個人のコメントシートへのきめ細やかな対応が十分とはいえない。講義科目については法律や制度についての内容が多いため、事前事後学習の内容を工夫し、授業ではより一層アクティブ・ラーニングの手法を取り入れていきたい。	
4. クロームブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。 クロームブックを活用したスライド作成、課題の提出、課題を活用したグループ内発表などを行った。学生たちがそれぞれ工夫してスライドを作成しており、他の学生の発表から自分のスライドの改善点についてコメントしていた学生もいた。次年度もクロームブックを活用し、学生が主体的に学ぶことができるよう心がけていきたい。	
5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 ・配布資料が多いため、シンプルかつ学生が取り組みやすい資料作りを心がける。 ・効果的なICTの活用方法、アクティブラーニングの手法などを更に学び、学生が自ら学びを深化することができるようにしていきたい。	

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	大島美知恵
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 音楽療法概論、音楽療法Ⅰ（基礎）、音楽療法総合演習、音楽療法実習、 音楽療法Ⅱ（臨床）、音楽療法Ⅲ（技法）音楽特講Ⅴ、リトミックⅠ、リト ミックⅡ、音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅵ、音楽Ⅶ、保育実習指導Ⅰ（施設）、卒業 研究指導Ⅰ、卒業研究指導Ⅱ
	1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 小テストを返却する際には、回答の傾向を伝え、間違えやすいところや分かりにくいところ を説明するようにした。 実技系の授業では、課題チェック表を用意して自分の習熟度が分かるようにしている。
	2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 予習したという回答が増えている要因としては、シラバスに各回の授業の予習・復習の内容を 記載したことが考えられる。
	3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きく ださい。 概ねシラバスに沿って行ったが、リトミックは他者との接触が多く、動きも激しいことから、 感染症が流行っている時期には項目を変更して行ったことがあった。後程、変更した内容につ いてはフォローして行った。
	4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等につ いてお書きください。 今年度もリトミックで一人ずつピアノの課題を見る際の待ち時間に鍵盤アプリを利用して練 習させた。昨年は、クロムブックを持参せず、スマートフォンで行う学生が増えていたが、今 年度はクロムブックを持参して練習する学生がほとんどであった。 その他、グループワークで各グループで出た意見をスプレッドシートに記入しあって共有し、 全体で意見交換する方法なども取り入れた。
	5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 各回の授業の達成目標を明示するようにする。理論の授業内容がボランティア活動や実習な どの実践の場で活かせるように関連性を持たせながら進めるようにする。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	松岡 展世
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 発達臨床心理学、障害児保育、発達心理学、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、子ども の理解と援助、特別の支援が必要な子どもの保育、保育・教職実践演習、 子ども生活学概論、文章表現Ⅰ、卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。 実習以外のすべての授業で、毎授業コメントシートに、学生の授業理解の内容や気づきをレポートさせて、理解や習熟度の把握に努め、疑問や質問は次回に全体の前で回答および補足説明を行った。また、コメントシートの質問項目を授業毎に、授業内容の理解を記述できるように工夫した。前回の相互授業参観での学びを踏まえ、クラス全体と双方向のやりとりを増やした。</p>	
<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。 実習科目は大量の課題にもかかわらず学生の評価が高く、「安心して準備できた」「実習で楽しい時間を過ごせた」「学生目線でほめて伸ばしてくれる先生方の姿勢が手本となり」等の回答から、毎回チームで個別添削をして返却し、事前準備にも膨大な時間をかけてきた甲斐があったと感じた。講義科目では、最低評価をつけた学生が数名おり、普段から全体に目配りして、取りこぼされている学生がいないか気に掛ける必要性を感じた。</p>	
<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。 コメントシートのフィードバックに加え、学生との双方向の言葉のやりとりを増やしたことで、集中力があがったという体感があつた。シラバスにもおおむねそって実行できた。実習との科目間連携で内容を変更したコマもあつたが、学生には好評であつた。</p>	
<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。 全講義科目でGoogle クラブルームを介してレポート課題を課し、実習では手書き課題がほとんどだが最終まとめや宿題はスライドで作成。授業中にリアルタイムで使用する課題では、Wi-Fi 不通で廊下で作業する学生もおり、授業中の使用法には工夫が必要と感じた。また「クロムブックよりも早い」とスマホでレポートを作成する学生も複数見られ、提出前に全体像をみて推敲するようにという指導の必要性を感じた。</p>	
<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。 ・学びの見通しがもてるように実習との関連や多目的との関連、授業内における位置づけなどを示して学生が今していることの意味付けを理解できるようにする。 ・学びの理解を深めるような予習や復習を、学生がそれと自覚してできる形で提示するようにしたい。</p>	

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	新井 祐子
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 音楽理論、保育内容総合演習Ⅱ、卒業研究、卒業研究指導
<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現する楽しさや喜びを体感できるよう実演の機会を多く設けた。振り返りのレポート等から、実演を通して表現への学びが深まったことが確認できた ・音楽を交えた保育の活動案を考案、発表する機会を設け、保育現場における実践力向上を図った ・振り返りのレポート提出を課し、学習成果の可視化を試みた ・教員のFD研修を行い、保育音楽に関する学びを高めた 	
<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目において学部平均以上の評価を得られ、一定の満足度が窺えた ・「予習・復習を行ったか」についてのポイントは未だ改善できる部分があると感じた。演奏実技に苦手意識がある学生ほど普段の練習に取り組まない傾向が見られるため、適宜フォローアップしながら主体的に取り組めるよう声掛けしていきたい 	
<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。</p> <p>シラバスに沿った展開を心掛けたが、学生の習熟度に合わせて一部内容を修正、変更した科目もあった。特に演奏技術は個人差があるため、各レベルに応じた教材や課題について引き続き検討していきたい</p>	
<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。</p> <p>上述の通り、学期末に classroom から振り返りのレポート提出を課した。演奏実技は感覚で覚えるところが大きいですが、言語化することで自身の成果や課題が明確になり、学生が感じている課題を教員側も共有することができ、有効であった</p>	
<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。</p> <p>レッスン内容の充実を図り、一人一人へのフィードバックの機会を増やしていきたい</p>	

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	阿部 巧
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） オーラルイングリッシュ I・II、グローバルコミュニケーション、子ども生活概論
<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの楽しさを実感できるように、外国の先生とのやり取りや、高校生とのやり取りを取り入れた。 ・クラスルーム上でフィードバックを繰り返し、求める姿を丁寧に説明した。 	
<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者のお見解をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語が苦手な学生が多い中、多くの学生が内容を好意的に受け止め、非常に意欲的に取り組んでくれた。 ・多くの学生から好意的な評価を得ていることから、内容は変更せず、引き続きコミュニケーションを重視した内容にしていく。 	
<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義名がオーラルイングリッシュであるにも関わらず、教科書が総合的な内容であったことから、ねらいと教科書の内容にややずれがあったと考える。進行については、予定通り進めることができた。 	
<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスルーム上での課題の提出、フィードバック ・外国の先生や高校生との交流 ・課題の配布、動画、音声の視聴、機械翻訳の活用 <p>活用にあたっては、マナー面などを引き続き伝えていきたい。</p>	
<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを重視しながら、知識や技能を高められるよう講義と授業外での取組を精査していきたい。 	

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	霜触 智紀
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） レクリエーション概論、スポーツと健康Ⅰ・Ⅱ、幼児体育、教材研究（運動と健康）、野外活動Ⅰ・Ⅱ、保育内容（健康）、文章表現Ⅰ、卒業研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業研究
	<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数回にわたるグループディスカッション及びグループ活動 ・リアクションペーパーによる授業内容の質疑に対する次時の回答 ・理論と実技の融合した実践的授業
	<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目で平均を上回り、学生からの授業評価は概ね良好であった。 ・予習復習の在り方について、特に実技科目を多く担当する者として、引き続き検討していきたい。
	<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間シラバスに沿ったテーマで展開できた。必要に応じ、適宜学生のニーズや意見を取り入れ、強行しないよう心掛けた。 ・昨年の反省を活かして、授業内容量を検討したが、やはり駆け足な講義になってしまう場面があった。教授事項を見直し、重点的な部分と補助的な部分を再検討したい。
	<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援案作成、野外活動しおり作成、そのほか課題等、適宜使用した。学生が各自で操作する中で各々が ICT の活用方法を体得していた。ほぼすべての学年で使いこなしているように感じる。
	<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズを取り入れながらも担当授業における必須教授事項を明確に伝えたい。 ・保育への導入について教員自身が学びつつ、履修者への最新の知見を提示し、興味・関心を高めることが求められる。 ・教員自身が積極的に保育現場などに赴き実践力を高めるとともに、その支援経験から学んだことを授業に組み込みたい。

学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組（2024年度）

宇都宮共和大学 子ども生活学部

教 員 名	小野貴之
担 当 科 目	（*担当している科目をすべて記入してください。） 保育内容言葉、子どもの理解と援助、発達支援論、保育方法論、保育内容総合演習Ⅰ～Ⅳ、実習事前事後演習、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）、卒業研究指導Ⅰ～Ⅲ、卒業研究
<p>1. 今年度の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫/改善点をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回のアンケート結果でマナーの悪い学生に対する指導は適切であったかという設問の回答結果があまりよくなかったため、そういった姿があった際には適切に指導するように心がけて授業を行った。 	
<p>2. 学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回よりもマナーの悪い学生に対する指導は適切であったかという設問の回答結果が改善されたので、意識した工夫は一定の効果があったのではないかと思われる。 ・教科書・資料などの教材は適切であったの回答結果があまりよくなかったため、今後はこの点を改善していきたいと考えている。 	
<p>3. 今年度の授業を振り返っての反省点やシラバスにそって実行できたかどうか、お書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの授業でグループワークの時間を何度か設けていたが、学生同士が学びあう機会を増やしていくためにも、今後はさらに回数を増やしていきたいと思う。また、今後はグループワークで学んだことを発表する機会をさらに設けていき、学生がより理解を深められるように授業を行っていききたいと考えている。 ・学生が授業の中でより興味・関心を深めていけるように、今後はさらに資料や伝え方等を工夫していきたいと考えている。 	
<p>4. クロムブックを利用した授業を実施された場合は、その利用方法、工夫点、感想等についてお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google クラウドルームを活用することで、学生が課題の提出を円滑に行えている様子が見られた。しかし、実習では日誌は手書きであるため、これからも手書きの課題提出も十分に行っていきたいと考えている。 	
<p>5. 今後の授業での改善策を簡単にご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書・資料などの教材の活用について、改めての検討する必要がある。 ・今後、さらに学生同士が学びあえるような機会を授業の中でさらに設けていきたいと考えている。そのためにも、グループワークや調べたことを発表する機会を今後の授業において大切に位置づけていきたいと思う。 	

III-2. まとめ

教員による授業改善等に関する報告書では、今年度(2024年度)の授業で、到達目標を達成するために試みた工夫点や改善点、学生の授業アンケート結果に関する担当者の見解、今年度の授業を振り返っての反省点、クロムブックの活用、今後の授業での改善策の5点について、記入を求めた。

今年度は、ほぼコロナ前の授業形態へと戻ったように思われる。教員のコメントからは、それぞれが様々な工夫をもって授業を展開していることが伺える。また、学生一人ひとりに目配りし、丁寧な指導を心がけるとともに、意欲や関心を引き出すために、外部との連携や映像資料の活用など、学生が理解しやすいように、イメージしやすいように講義に工夫を凝らしていることがわかる。このような姿勢が学生による授業アンケート調査でも評価され、良好な評価を得たものと思われる。

一方、教員報告の中で授業改善の視点として挙げられた主なものとしては、次の3つが挙げられる。

一つ目は、前年度に引き続き、アクティブラーニングの工夫・改善である。ほとんどの教員が学生の意欲・関心の喚起、また主体的・対話的で深い学びの実現のためにアクティブラーニングを導入しているが、今後も、アクティブラーニングの手法を取り入れた教授法のさらなる研究、開発が強く意識されていることが窺える。

二つ目は、ICTの活用である。新入生が一人一台のICT端末(クロムブック)を持つようになり4年が経過した。全学年において授業内外でICT活用の機会が大幅に増加した。事前学習の指示、課題提出とそのフィードバック、情報共有、意見交換、発表、外部との連携、ポートフォリオ作成などに活用されている。今後もその効果的活用法の研修、模索の必要性を挙げる意見が多く見られた。また、ICT利用の際の課題もいくつか指摘されており、改善策を考えていくことが求められている。

三つ目は学修成果・評価の可視化である。代表的な取組としては、コモンルーブリック、ポートフォリオの作成などが挙げられるが、その他にもそれぞれの教員がそれぞれの授業の中で様々な取組を行っていることが窺える。そのエッセンスとするところは、到達目標や評価規準を学生に明示し、学生が自立的に自己の学修を組み立て、事後には適切な自己評価と省察ができるような工夫をしている点である。学習成果・評価の可視化については、FD研修「ポートフォリオ」での学生の作品からも、学修の主体化、深化に大きな効果をもたらすことが示されており、そのことは全教員の共通認識となっている。今後のさらなる工夫・改善が期待される。

上掲3点の他には、一昨年度からシラバスに明記された事前・事後学修を促すための工夫、近年拡大傾向のある学力差にどう対処していくかなどが挙げられていた。

以上のことを考慮し、今後のFD研修のテーマを設定していきたい。

IV. FD・SD研修

IV-1. FD・SD研修

(1) 第1回 組織におけるサイバー犯罪の傾向とセキュリティ対策について

日 時：2024年8月19日（月）15:00～16:00

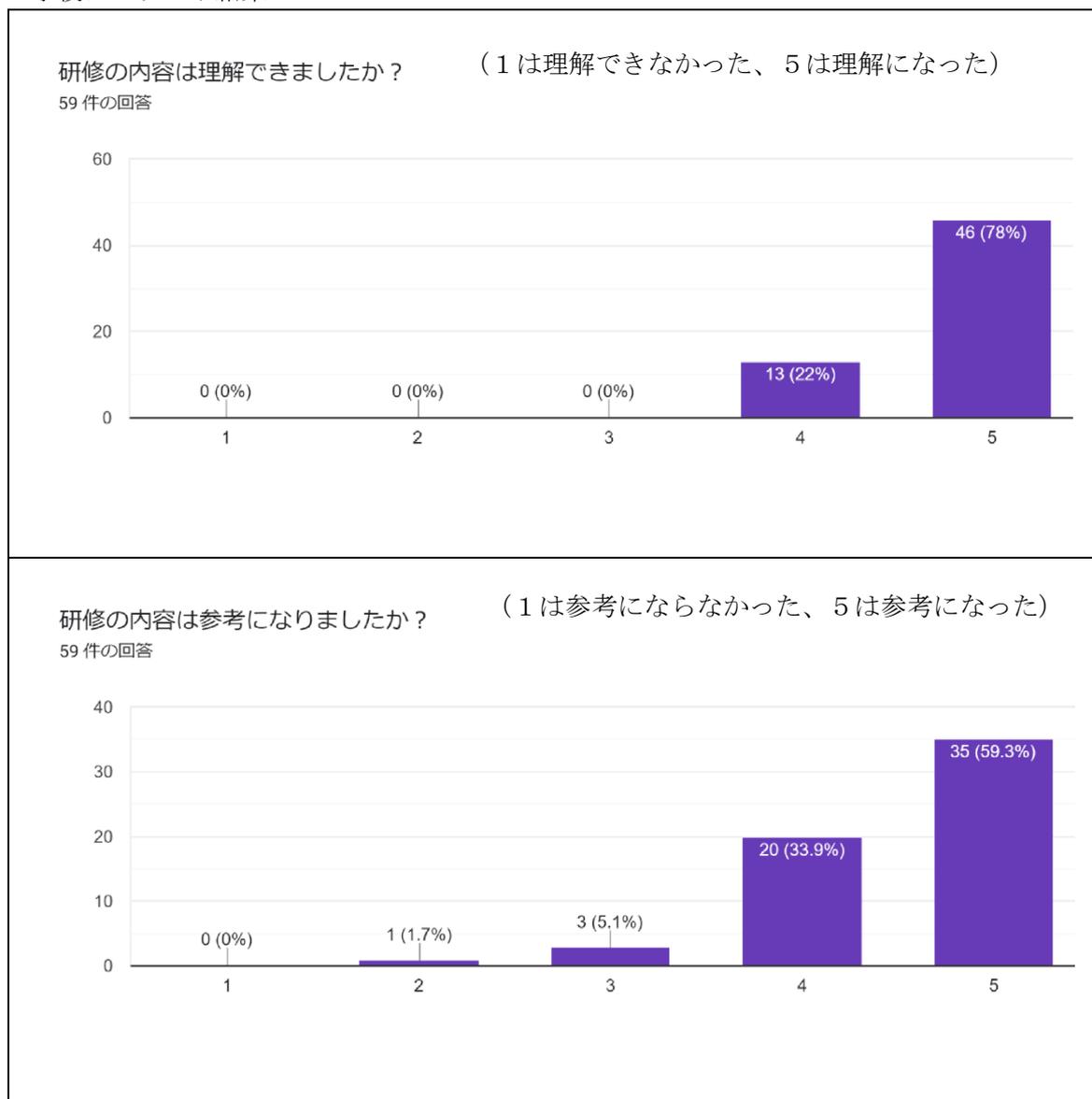
会 場：宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス 604 講義室（LIVE 配信で受講可）

テーマ：「組織におけるサイバー犯罪の傾向とセキュリティ対策について」

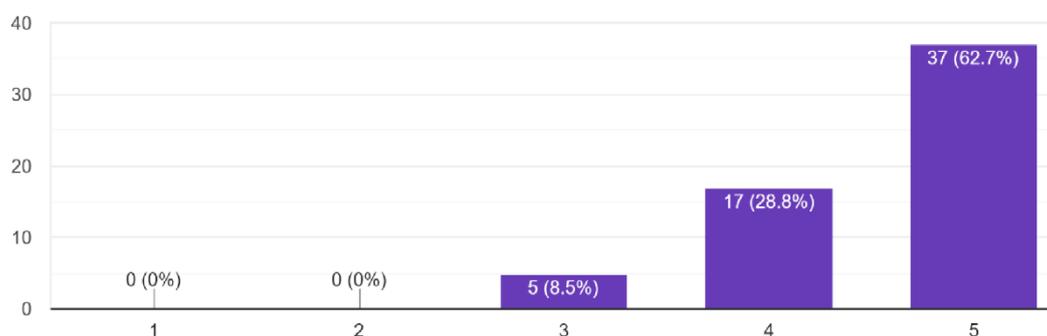
講 師：株式会社あしぎん総合研究所 地域開発事業部

受 講 者：宇都宮共和大学・宇都宮短期大学 教職員 59 名

事後アンケート結果：



講師の話は分かりやすかったですか？（1は分かりづらかった、5は分かりやすかった）
59件の回答



講師の先生へ質問がありましたら、ご自由にお書きください。

- 1. 席を離れるときに電源を切るという対策がありましたが、ネットを切る (Wi-Fi など) を切るだけでも良いのでしょうか？ 2. ピープ音が鳴るような偽の画面に出くわしたときは、ネットを切るや電源を落とすでもいいのでしょうか？
- 自分は、職場のパソコンも、家のパソコンも、スマホも、詐欺の画面になったことはないのですが、OS や、機種の種類が、それに関係あるのでしょうか？
- アマゾン、三井信託などを装った偽装メールを入らなくする方法はないのか？受信拒否リストに入れると件数は減るが、まだ入ってくる。
- 安全のためにパスワードを複数化し、複雑にするに伴い、覚えきれないので、Google や Microsoft などにある管理サイトに各種暗証番号を記憶させることがあります。これらは安全性としては高いのでしょうか？
スライドでの説明後の最後のまとめが音声が入っておらず、聞けませんでした。どのようなまとめだったのでしょうか。
- 最後のほう（特に質疑応答の時）、演者のマイクがミュートになっており、音声を聞くことができなかったため、質疑応答の内容が気になっています。
- 講師の先生へ、ではないのですが、質疑応答の際のやり取りを教えていただきたいです
- 私も質疑応答時の音声途切れました。

質疑応答事項（1件）

質問：須賀理事長より、不審メールの見分け方についてご質問をいただきました。

回答：

- メール本文を開くだけであればリスクはないと考えられますが、本文の中に設定されている URL をクリックしたり添付ファイルを開いたりすることで情報が抜き取られる可能性があるため、少しでも不審な点がある場合は何もせず削除いただくことをお勧めします。
- メールの見分け方は、メールアドレスが異常に長いとか、本文や企業のロゴマーク等に不審な点がないか注意をしていただきたい。

- できれば、ご自身のアプリやお気に入りに登録しているルートから、該当のサイトにアクセスして確認いただくことが望ましいです。

(2) 第2回 キャンパス・ハラスメント防止啓発研修会

日 時：2024年9月27日（金）16：00～17：00

会 場：宇都宮共和大学長坂キャンパス 5号館501教室

テ ー マ：「キャンパス・ハラスメント防止啓発研修会」

受 講 者：宇都宮共和大学子ども生活学部・宇都宮短期大学 教職員 29名

内 容：キャンパス・ハラスメント防止啓発に関する動画視聴（個人・事前）を基にしたグループディスカッション

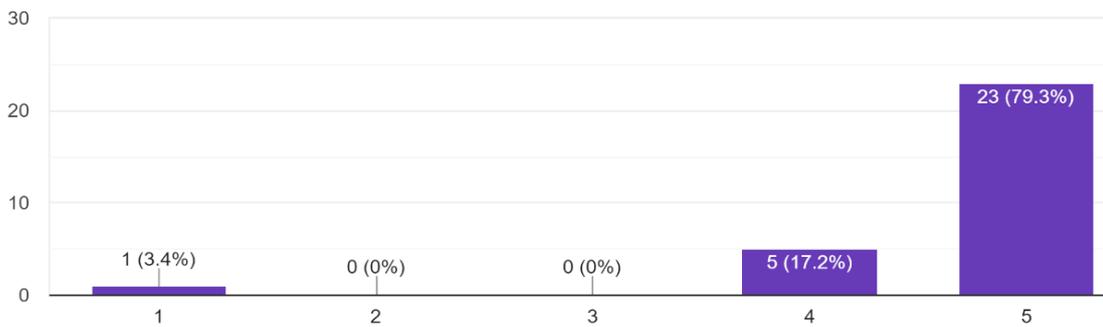
事後アンケート結果：

◇研修は参考になりましたか

1 参考にならなかった 5 大変参考になった 均等メモリスケール

本日の集合の研修について

29件の回答



感想

- 交流する中で考えが深まった。いろいろな考えがあるので交流しながら考えられる研修は有意義だった。
- 先生方みなさん、多々気をつけて指導されていることに、自分だけではないのを感じられて嬉しかったです。
- ハラスメントと指導の境界が難しいと感じました。
- 自己主張ができない学生ほど？誤解を生みやすく難しいと感じました。
- 先生方のご意見を聞いて、グループワークが良かったです。
- グループでの話しは、それぞれの考えや実態などを共有できる大変意義のある時間でした。
- 大変参考になった。
- ディスカッションで他者の意見をきけてよかった
- 各々の知見や体験にもとづき、様々な意見が飛び交い、勉強になりました。
- 他学科、世代の違う先生方の考えを伺う機会は重要だと思った。結論は出ないが、学生と丁寧なコミュニケーションをとることが大事。
- みんなのご意見が参考になりました。ありがとうございました。
- このような討論のある形式は大変よかったと思う。また、全体構成もよかったと思う。ありがとうございました！
- 他学科の先生とハラスメントに該当しない私語の注意の仕方について討論できてよかった

- ・ グループ討議は多くの情報を得る事ができて良かった。他学科の教員の話を書く事により新たな視点も得られた。
- ・ 先生方との意見交換を通して、改めて学生との関係構築や場面での発言の繊細さ、伝わり方を考慮した指導など考えさせられる良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・ 音楽・食物栄養の状況がわかった。今はこちらが気にしすぎて、学生に伝えないことが増えたり、諦めたりすることが多くなった。するとコミュニケーションが取れなくなり、関係性が悪化する。悪循環だと思った。何を言ったか、の、証拠を残すことも大切という内容も聞いた。参考になった
- ・ グループディスカッションの話し合いの中で、学生が心のなかでどう思っているのかはわからないので、その点を踏まえて十分に留意する必要があるという話がありました。それぞれの先生方のお考えや悩みについても話を聞くことができたので、とても勉強になる研修でした。ありがとうございました。
- ・ フリートークがとても良かったです。他学科の先生方より、学生との普段の関わりについてお聞きすることができ、今後の参考になりました。ご準備ありがとうございました。
- ・ 一人で抱え込まない、個人の問題にしない、組織づくりが大切かと思いました。高校、中学の教員の取組も聞きたいと思いました。
- ・ グループ内の意見で、学生との関係性とは、容易には図ることができず、その関係性を見誤ることで、問題が起こるとの話があった。そして最後の河田先生のまとめにて、仲良くなる程に、対応が難しくなるとの話があった。これら2点が特に難しく、当たり障りのない関係に留めるべきなのか、本人のために指導をすべきなのか迷う部分がある。グループ内の意見で、「学生が望む指導」という話が出たので、学生が望む指導（優しさ、厳しさ他）に合わせて、不公平にならないよう、個別に指導が必要であると感じた。
- ・ 日頃から、注意はしているつもりではあっても、相手の立場や思いを汲み取らなければならないと再認識させられました。また、他の学科の状況も知る事が出来て良かったです。
- ・ 教員と学生の共通認識を持つことが大切であると感じた。ある程度の距離感を保ちつつ、主観的に、でなく冷静な判断を持って接していきたい。有意義な研修であった。
- ・ グループトークでいろいろな先生方のお話を聞くことができ大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 普段学生との関わりでの困っていることや感じていことを教員間で共有することでも、ハラスメントを予防にもなるのではないかと実感しました。貴重な機会となり、ご準備くださり感謝申し上げます、
- ・ シティと雰囲気の違い、大変参考になりました。資格取得が卒業と密接な関係を形成していたり、実習など外部の方とやりとりしたりすることが多い学部・学科が中心なせいか、指導に対する責任、プレッシャーが多い印象。それゆえ、ある程度の強度で指導せざるを得ず、ハラスメント(の可能性)で苦心される先生が多いように感じました。
- ・ それぞれの分野の職業的特性からも必要な指導や育てるべき能力等が異なる他学部・他学科の先生方から、それぞれの指導方法について伺い、共通する部分や意外な気づきと驚きがあり、とても興味深くディスカッションができました。
- ・ これまでの事例や先生方が実践されていることを伺えたので、今後の教育に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 先生方とハラスメントについてお話する機会はこれまであまりなかったので、今回いろいろなご意見を伺えて有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・ ハラスメント研修があることで自己の学生対応や行動を見つめ直すことができます。教員

間のワークショップも初の経験でしたが、教員間のコミュニケーションを図る上でも重要な時間だと思いました。ご担当の先生方、ありがとうございました。

- 冒頭で、アンケート結果のシェアがあったのがよかったです。こんなふうに思っている方がここにいるんだと知れるのも心強く思いました。また、動画や資料を各自がみるだけでなく、小グループでディスカッションできたのがとてもよかったです。他学科の混合で話せたことも新鮮でした。
- 「もし動画のような事例があっても、とめるのは難しい」というコメントがありましたが、このような共有の場を重ねて、「このコミュニティでは、こういう行動はまずいとみなされる」と肌身で感じるものが抑止力につながるのではと思いました。また、1度学んで終わりではなく、こうした機会が継続的にあることが必要だと思います。ごくろうさまでした。
- 様々なお話等を聞かせてもらい参考となりました。ありがとうございました。

◇次年度以降の研修について

- 参加者からは、毎年、このような防止・啓発の機会は貴重だとの意見が多数あり、研修の機会を確保していく。
- 内容については、教員から学生へのハラスメント事例や教員間のハラスメントの事例、ハラスメントの事案をどのように解決していったのかの事例などの意見や、学生も、指導とハラスメントの教会について考えてもらう機会も必要との意見が出された。
- 研修方法は、時間のある時に学べるオンデマンド教材とともに、職員同士が小グループで話し合える機会も大切との意見があった。
- 今後は、学生向けの研修教材や講師を探すとともに、方法についても隔年で、オンデマンドと集合の研修を企画していきたい。

IV-2. FD研修

(1) 第1回 高等教育段階における合理的配慮

日 時：2024年4月20日（土）14:00～15:30

方 法：zoomによるライブ配信と協議会

テ ー マ：「高等教育段階における合理的配慮」

受 講 者：宇都宮共和大学子ども生活学部教員 15名

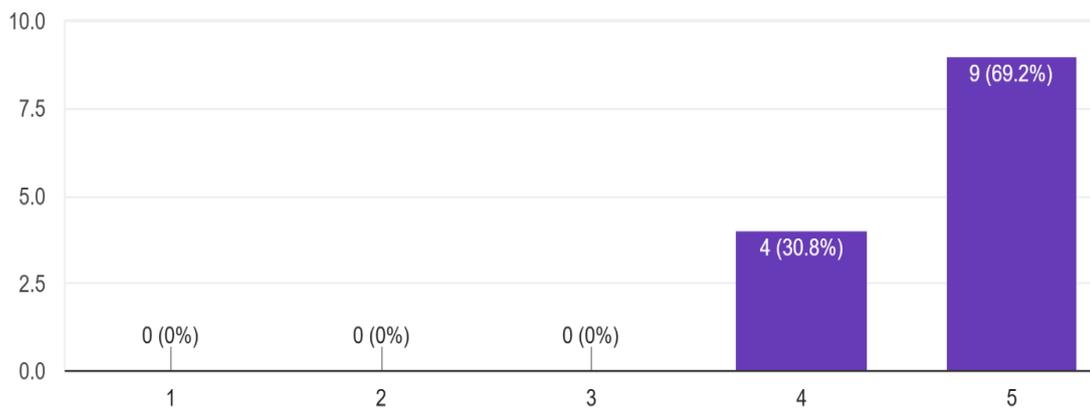
事後アンケートの結果：

(1) 本日の研修について

(1は参考にならなかった、5はとても参考になった)

高等教育における合理的配慮について、理解が進みましたか？

13件の回答



(2) 授業等で取り入れてみようと思ったこと

- ・ アクティブラーニングの実施に関する個別的配慮の再検討をしておくことや、マルチタスクに困難がある学生への対応など改めて配慮可能な方策を考えたい。
- ・ 基本的なことですが、学生本人の意思確認
- ・ 私の担当科目は演習等が多いため、代替案を検討するのは難しい。が、基本的な考え方（DP/CPを踏まえ、課題等のハードルの高さを変えるのが合理的配慮ではない、という部分）を忘れずに対応したいと思う。
- ・ 学生の申請が前提だが、実習においては、主治医との連携と医学的な対応を依頼すること。
- ・ 自分が担当する授業において、どのような合理的配慮が可能か事前に考えておくべきだと感じた。
- ・ 例：アルファベットが読めない、書けない など
- ・ 事前的改善措置が充実すれば、合理的配慮は減少する点を学ぶことができた。必要に応じて個別事例的に対応していく際には授業前に事前に必要な配慮を確認し、準備して進めていきたいと思う。
- ・ 本人との確認をとること
- ・ 合理的配慮を求められた場合、実技を伴う科目の評価について、成果物そのものだけでなく手順や考え方なども評価に取り入れ、多くの観点をもって総合的に評価するという対応が参考になった。

- ・ 障害者の権利に関する条約や障害者基本法、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律は授業でも触れていますが、高等教育段階における合理的配慮にも触れていきたいと思いました。学生たちの理解も深めていきたいです。
- ・ 事前的改善措置として必要なことを考えること。
- ・ 本人の分かりずらさを、個人差として受け止め、分かりやすい授業の組み立てや、個別指導などを取り入れ、本人が学びやすくすること
- ・ ICT 機器の利用は積極的に行いたい。
- ・ 学生から合理的配慮を求められた場合、基本的な考え方は変えずに対応したいと思う。

(3) 本学で整備できそうな体制はありましたか。

- ・ 職員対応マニュアルについては要検討と考える。事務局とも連携しつつ合理的配慮について環境整備・対応整備のためのプロジェクトを推進する必要があるが大学基準協会関連でも今後は求められるようになるように思われる。
- ・ すでにケースとしては経験済ですが、医療との連携、「学生相談との連携」など
- ・ 講師の先生の大学のような規模で体制づくりをするのは困難。受け入れ後に、アセスメントは誰がどのようにするのか、医療機関との連携は誰が？など、整備すべき部分は多々あったように思う。
- ・ スライドにも提示された「〇〇大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領に関する規制」なるものは作成した方が良かった。
- ・ 在籍学生が申請するための窓口の整備は急務だと思いました。支援室等、担当部署の設置ができればより良い個別的な対応ができると思います。
- ・ どのような組織があるかなどわかっていないので見当はずれなことを言っていたら申し訳ありません。学内の組織や担当などを見ていたら、特別支援や合理的配慮などを所管するような担当がないように感じました。そのため、実際に合理的配慮を求められる場合に、教員がそれぞれ解釈して合理的配慮を行うことになるのではと、お話を聞いていました。もしそのような体制がないようでしたら、合理的配慮や特別支援などについて考える支援の流れのようなものを作成しておくのではないのでしょうか。
- ・ 個別のマニュアル作成についての話があったが、それらを作成して共有していくことも大切なことであると感じた。
- ・ 医療機関との連携をして対象学生とのアセスメントをすること。
- ・ 入学時の学生情報に精神的な障がい載っていれば知らせてほしい（事務局との連携）。
- ・ 精神的な問題を抱えている学生について、個人面談を通して担任は何かしら情報を持っている可能性がある。また、実習委員会などで学生の特性について話し合われていると思うので、教育的配慮が必要だと思われる学生については教学会議などで情報共有していただけるとありがたい
- ・ 学部の教員間で学生に対する共通認識をもつことが大切だと思います。学生自身が合理的配慮を申し出る際にどこに窓口があるのかわかりやすい説明も必要だと思いました。
- ・ 大学でのコンセンサス
- ・ 分かりづらさを抱える学生に対して、きちんと話を聞き、取れる手立てを講じることができるようするには、どこかにきちんとした役割分担、部署を置くことが求められると思いました。
- ・ 合理的配慮を必要とする学生情報の事務局、教員サイドとの共有
- ・ すぐに講師の先生の大学のような体制づくりをするのは、本学では難しと感じた。まずは、事務職員も含めた窓口の設置が必要であると考えた。

(4) 感想

- ・ 大変参考になる研修になりました。企画・準備して頂いた先生方ありがとうございました。
- ・ 合理的配慮とは「必要かつ適当な変更及び調整」であり「均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」であるという定義、原則が非常に重要だと確認しました。ともすると後者を求められがちなので、出来ること・出来ない事の合意が非常に重要だと思いました。また、相談室担当者など、教員以外の他者が介在することの重要性を感じました。
- ・ 良い研修をお知らせいただき、ありがとうございました。
- ・ 法令等は（個人的に）苦手な部分であり、通常であれば向き合わない部分に目を向けることができた。
- ・ 合理的配慮は全学的な取り組みが必須で、今後どう対応していくかが課題。できるだけ入学時の相談で要望がでた際に対応しておくこと、入学後に困らないと実感した。「差別とは違う」ことを根拠を示してしっかり対応しなければならない。本学部でのさまざまな事例を考えると、「できる範囲で対応」とはいえ、今後を考えると暗い気持ちになった。我々が潰れないようにするためにも、「面倒見が良い」という本大学のウリの部分について（逆に取られないように）ある程度はガードをした方が良く感じた。
- ・ 大変わかりやすく、合理的配慮の意味や意義がよく理解できました。やみくもにやっけてはいけないこと。学生の意思表示があった場合には、教育的、法律、規定、医療等の専門家等、複数の観点から検討する必要があることを認識できました。実習に関する内容が含まれていたことも有難かったです。どこの大学も同じ課題を抱えていることもわかりました。
- ・ 一つ目の部分と重なりますが、合理的配慮を行う際に、どういった個別の対応を行うかは、早い段階で学生と保護者を交えて話しがまとまっていないといけな感じました。ある科目の単位を落とし続け、3年生や4年生になって「アルファベットを読むのが苦手なので、合理的配慮をお願いします」ということになると、どのように対応したらいいかわからないです。
- ・ 義務教育においては、保護者との接点が多いことから、医療との連携をしながら環境を整えることはよく行われていると思うが、高等教育においてどうなのかと疑問に感じた。
- ・ 障害学生支援における合理的配慮について、とても勉強になった。どこまでの配慮が必要なのかがこれまであまりわかっていなかったが、レストランの例えにあったように必要以上の配慮が必要なわけではなく、必要な範囲についても考えることができた。
- ・ 配慮「すべきこと」と「できないこと」の基準のようなものを知ることができたが、もう少し具体的事例を知らないと判断していくのは難しい。事例を聴く機会があると有難い。
- ・ 合理的配慮についての知識が深められ研修そのものは有意義であった。
- ・ 通常の授業においては合理的配慮の対応は取れるが、校外実習、特に資格に関わるものは先方に受け入れ体制が整っていないと厳しいのではないかと感じた。
- ・ また、教育的配慮から合理的配慮へ移行する必要がある場合、それを保護者が認めるかなど、様々な検討事項が想定されるとも感じた。
- ・ 高等教育機関としての評価基準は下げるべきではないというのも重要なポイントであると気づきを得た。
- ・ 合理的配慮は個別事例的に検討するもののお話がありましたが、個別の検討で迷った際に4つのポイントに立ち返り修学支援をしていきたいと思いました。
- ・ 合理的配慮とは、適当な変更や調整であること。

- ・ インクルーシブ教育を実現するためには、個々人の学びずらさを踏まえ対応が必要だと思いました。それをしないことはハラスメントになるという話を聞いて、認識を新たにしました。
- ・ 上手く対応できるか、不安ばかりです。
- ・ 合理的配慮について学ぶ、とても良い機会になりました。大変分かりやすい内容でした。

(2) 年齢別歌のレッスン見学

日 時：2024年6月6日（木）10：00～11：30
 会 場：清原保育園（宇都宮市野高谷町283-1）
 講 師：篠崎加奈子 先生
 （宇都宮短期大学音楽科、宇都宮共和大学子ども生活学部非常勤講師）
 受 講 者：新井祐子、大島美知恵、（宇都宮共和大学子ども生活教員）
 ※宇都宮短期大学音楽科と合同FD研修会
 目 的：保育の現場で音楽活動を行う際の子どもの関わり方や支援の在り方を経験豊かな講師の指導から学び、今後の指導及び授業内容に反映させる
 概 要：年齢別、歌のレッスン見学
 10：00 レッスン見学 3歳児クラス
 10：30 4歳児クラス
 11：00 5歳児クラス
 11：30 見学終了、現地解散

事後アンケート結果：

1. 本日の歌のレッスン見学を通じて保育者に必要とされる資質への理解が進みましたか？
 ・ とても深まった 4名
2. 授業やレッスンに取り入れたいと思ったのはどのような点でしたか
 ・ 篠崎先生の話され方や指導のされ方が、子ども達と接する際の、非常に理想的な姿だと感じました。学生達にも、篠崎先生を見習って、子ども達への前向きな声掛けの仕方や、明るい表情とトーンでハキハキ話すことの大切さを伝えていきたいと思います。
 また、弾き歌いをする際の豊かな声量の重要性や、子ども達の様子や表情を見てレッスンすることの大切さを改めて感じる事ができたので、学生達が、少しずつでも余裕を持って楽しく弾き歌いができるよう、今後も指導を続けていきたいと思います。現場で実際に園児の前で歌う際に、手遊びやリズム要素をどのように曲に取り入れると良いか等、プラスアルファのことも指導していきたいと思いました。
 ・ 篠崎先生に本日のような模擬授業をしてもらい、学生に見学してもらう機会を作りたい。指導者としての言葉がけ、心がけや姿勢など、大変参考になると思う
 ・ ことば遊び的な発声練習の手法。2グループに分けて相手の歌っている姿を見合う活動。
3. 現在の音楽のカリキュラムについて、改善案があれば教えてください
 ・ 弾き歌いを ピアノからの視点だけでなく、歌からの視点からもご指導頂けるような機会があったら良いなと思います。また、可能であれば合唱曲やポップス等の伴奏も取り入れる等して、幅広いジャンルで伴奏の楽しさを味わってみるのも良い刺激になる気がします。
 ・ 特に初めはピアノに慣れる必要があると思うので、1年生の間だけでも毎週ピアノのレッスンがあれば更にテクニックの向上に繋がるのではないかと思います。
 ・ ピアノは隔週レッスンよりは毎週レッスンが望ましい。
 ・ 音楽にまつわる活動案作成及び模擬授業の実践。アカペラでいつでも歌えるレパートリーの蓄積が必要だと思う。覚えた歌を記録していくものを用意すると良いかもしれない。
4. 本日の感想をお願いします

- 本日は、貴重なレッスンを拝見させて頂き、お陰様でとても良い勉強になりました。改めて、この度は素敵な機会を作ってください、ありがとうございました。
- 篠崎先生のレッスンは大変素晴らしく、見ている皆が楽しくなるような話術や表情に、非常に感動いたしました。また、次から次へと展開される楽しく充実した内容を、先生の優しく明るいお声と笑顔が更に素敵な物にしていらして、レッスンを楽しくする為の工夫や先生の温かいお気持ちが感じられ、とても素敵でした。発育に合わせられたレッスン内容や、子ども達に自分で考える時間を取られているのも素晴らしかったです。
- 音程やリズムが正確な子が多かったのも、先生の日頃のレッスンの楽しく充実した物だからこそだと思いますし、リトミックや音楽に親しめる機会を定期的に作られている清原保育園さんは、とても素敵な園だと感じました。
- 篠崎先生の子ども達への接し方やレッスンのご様子は、何かしらの形で学生達にも直に触れさせてあげたいと感じる、非常に完成された素晴らしいものだと思います。
- 私も、本日の先生のレッスンから学ばせて頂いたことを胸に、今後も より良い指導を目指し精一杯努めて参りたいと思います。
- この度も大変お世話になり、ありがとうございました。引き続き何卒よろしく願いいたします。
- 篠崎先生の素敵な歌声と工夫がたくさん詰まったお歌のレッスンを見学させて頂き、大変勉強になることばかりでした。同じ曲を歌う場合でも、園児の年齢に合わせて内容を少しずつ変えることによって、園児たちも無理なく楽しんでレッスンを受けている様子が伝わりましたし、あの姿を子ども学部の子学生達にもぜひ見せてあげたいと思いました。
- 私自身も今回学ばせて頂いたことを今後のレッスンに活かしていけたらと思っております。
- この度はとても貴重な機会を頂きましたこと、感謝申し上げます。今後とも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- 発声プログラムが大変参考になった。子どもが歌うことで自然とドレミを覚え、レガートやスタッカート、様々なリズムといった要素にも触れることができるようになっていた。
- 3歳児20分、4歳児5歳児30分という短時間枠で取り組ませることで、子どもたちが集中して臨んでいる様子が印象的であった。講師のパワフルなご指導と、その指導の下日々保育の中で弾き歌いをされている担任の先生、双方の尽力により子どもたちが安心して声を出せる環境が作り出されていると感じた。
- 講師の素敵な歌声とピアノ演奏の音楽の中で、子どもたちは伸び伸びと声を出して歌っている様子であった。歌と歌の合間の子ども達への話しかけも、子どもたちが興味を引くような内容で、テンポや長さも絶妙であり、多くの学びを得ることができた。
- 今回は声楽専門の講師レッスンの役割を学ぶことができたが、今後の学生指導のアプローチとしてはピアノと声量のバランスや子ども達の表現の受け止め方についても学びを深めたいと思った。

(3) 第2回 保育士養成倫理綱領について

日 時：2025年2月7日(月) 15:00~16:00

会 場：宇都宮共和大学長坂キャンパス 3号館4階会議室

テーマ：「保育士養成倫理綱領について」

講 師：宇都宮共和大学 子ども生活学部准教授 松岡展世 先生

受講者：宇都宮共和大学子ども生活学部 専任教員15名

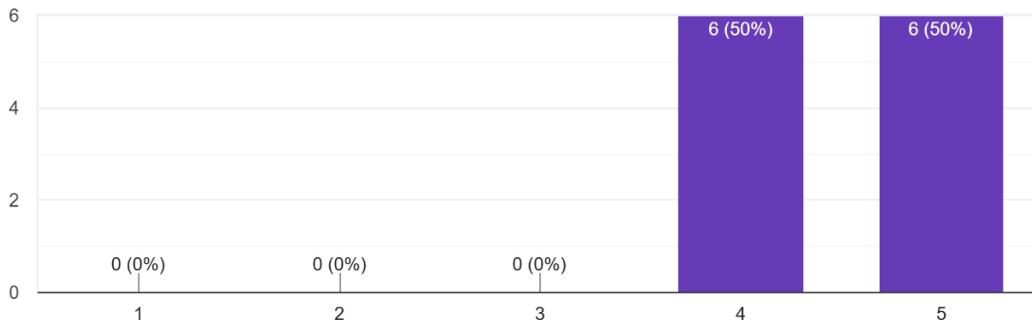
事後アンケートの結果：

(1) 本日の研修について

(1は参考にならなかった、5はとても参考になった)

本日の研修について

12件の回答



(2) 特に参考になった点

- ・ 基本的に保育者養成校としての教育・指導において、十全に実践している内容ではあるか、このように明文化して全国の保育者養成校で共有する倫理綱領があること自体に意味がある。と実感した。
- ・ これまで把握していた内容の振り返りができました。
- ・ 学生の学ぶことが尊重されていること
- ・ 実習先の児童について考えるという点から、害を与える恐れがあるときは必要な措置を講じるというのが大切だと感じた。少ないとは言っても、実習に行くとはよくないのではという学生がいるので、毅然とした対応で臨むことが重要だと感じた。
- ・ 実習担当教員だけではなく、先生方と保育士養成倫理綱領を確認できたこと。
- ・ 実習担当教員だけではなく、先生方と保育士養成倫理綱領を確認できたこと。
- ・ 保育士養成は、指定保育士養成施設の全ての教職員が連携し、各養成校の理念や教育方針、保育士養成教育に対するさまざまな価値を共有して行う営みであることを確認できたこと。
- ・ 学生に対する倫理的責任と実習施設に対する倫理的責任を十分に理解し、それを踏まえた実習指導を行うことは、学生の学びの充実とより良い実習環境につながる。また、適切な指導を通じて、学生の主体的な成長を促し、実習施設との信頼関係を築くことで、より良い学びの環境を確保できると考えた。
- ・ 学生に対する倫理的責任についての内容が特に参考になりました。
- ・ 学生指導に関する倫理
- ・ 教員としての在り方を再認識しました。特に、自分の研究や専門分野についての知見を高めるだけでなく、それと同様に保育に関してもより深く学んでいく必要があることを強く感じました。保育士養成倫理をもとに学部全体として学生への具体的な対応策を共有していくことが教育の質の向上につながると感じました。
- ・ ・不勉強だったので、有難かったです。松岡先生、丁寧な解説をありがとうございました。

(3) ご自分の科目に反映できる点について

- ・ 資格必修科目の教授内容に反映できる内容があった。

- ・ すべての科目に反映できると思います。ありがとうございました。
- ・ グループワークの重要性
- ・ 直接保育士要請に関わる教科ではないが、提出物等の期限、授業態度、遅刻などについてはきちんと指導して行きたい。
- ・ 深く関連しますので、ハンドブックを読み込もうと思いました。
- ・ すべての授業科目における学生とのかかわりの基本的構えや教授内容の確認など。また、複数教員で担当する科目や諸活動等における教員間連携の在り方など
- ・ 実習指導では保育の倫理に関する内容も扱うため、倫理的責任について反映して伝えていきたい。
- ・ スポーツ健康系の授業でも、子どもはもちろん保育者の安全面を伝える際に考慮すべき倫理について改めて意識したい。
- ・ 学生一人ひとりに応じた関わりに努めるよう、フィードバックの機会を増やしていきたい。
- ・ 折に触れて学生に説明したいと思います。

(4) 第3回 研究倫理

日 時：2025年2月14日（金）14:30～16:30

会 場：宇都宮共和大学長坂キャンパス 5号館5階501教室

テーマ：「研究倫理」

講 師：宇都宮共和大学子ども生活学部 教務委員会教員

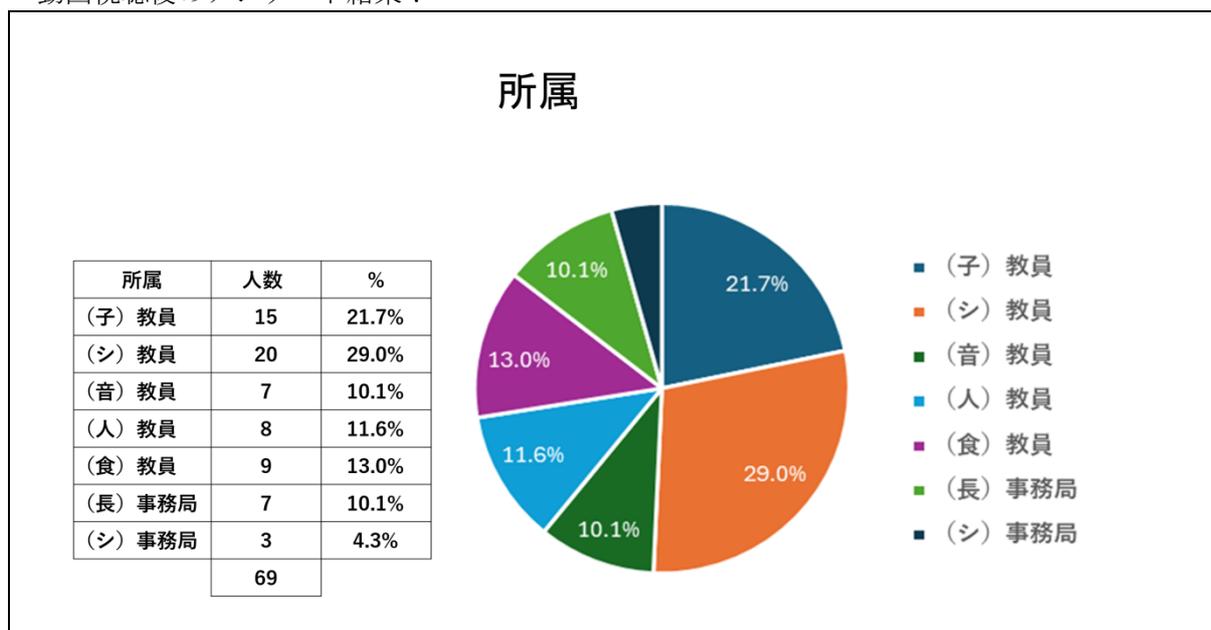
受講者：宇都宮共和大学子ども生活学部専任教員15名 ※宇都宮短期大学との合同FD研修会

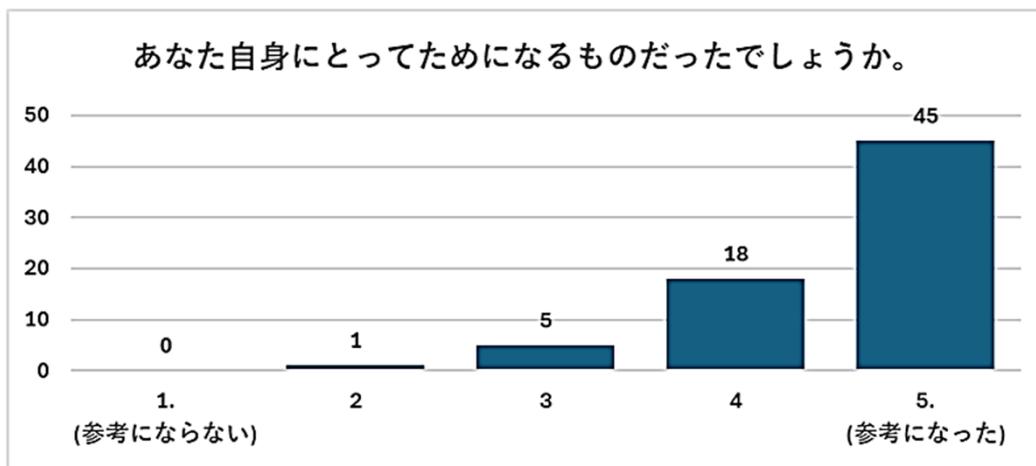
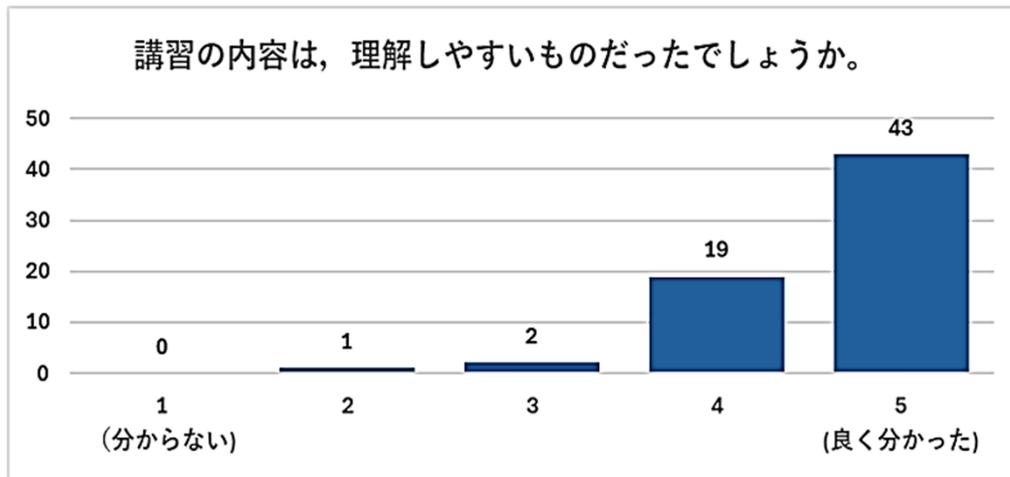
目 的：大学教員が、規範を遵守し責任ある研究活動を主体的に行うため、研究倫理に関する基本的な理解を図ることを目的に実施する。

方 法：1月10日（金）～1月31日（金）各自で視聴する。

YouTube 動画「倫理の空白Ⅲ 人文・社会編 研究活動のグレーゾーン」
事後アンケートに感想を記入する（期日 2月4日まで）。2月14日（金）の教授会の後、視聴した動画をもとにフォローアップ研修を実施する。

動画視聴後のアンケート結果：





意見・感想（一部抜粋）

- 自分の専門分野的に、同様の動画の自然科学版も視聴しました。個人的には、こちらの方が感覚が分かりやすく、参考になりました。
- 基本的な研究倫理が複数登場し、自分の研究活動を見直すいいショートムービーであった。院生のもどかしさもあらわされており、指導教員とゼミ生との視点から学ぶことができる重要な講習であったと感じる。
- ドラマの内容も整理されていて分かりやすい内容であった。
- 自己盗用、共著者の扱いなど、具体的でわかりやすかったです。また、データのバックアップ、アップロードへの注意など再認識できました。古い価値観、細かいことと捉えず、倫理は守らなければいけないと感じました。
- 論文により自己研究の主張の大切さに十分な研究倫理をもって進めることが大切であると再認識をした。
- 教育学の事例を取り上げており、身近で分かりやすいものでした。毎年、こうして確認する機会をいただき、ありがとうございます。
- 今回の動画を視聴し、研究倫理について再認識することができました。とても分かりやすい内容でした。
- 研究倫理は、自分自身の研究時には気をつけていても、学生の卒論指導では、十分といえぬのではと考えさせられた。学生本人に研究倫理について、引用や副窃の脱明や禁止を指導

し、本人に確認する（させる）などはしているが、本文を教員自身が十分に確認できていたとはいえない。指導にあたり、他の先生が工夫していることなどあれば、お聞きしてみたいと思った。

(5) 第4回 令和7年度シラバスチェック

日 時：2025年2月14日（金）14:00～15:00
会 場：宇都宮共和大学長坂キャンパス 5号館 502教室
テーマ：「令和7年度シラバスチェック」
講 師：宇都宮共和大学子ども生活学部 教務委員会教員
受講者：宇都宮共和大学子ども生活学部教員 15名

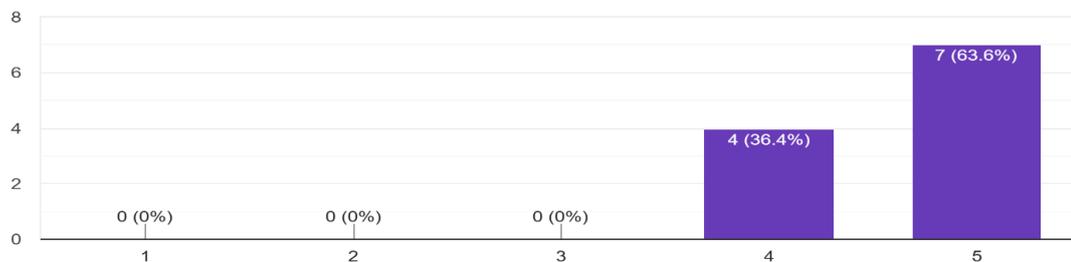
事後アンケート結果：

(1) 本日の研修について

(1は参考にならなかった、5はとても参考になった)

シラバスチェックをしてどうでしたか

11件の回答



(2) 良かった点

- 皆さんの書き方が参考になった。
- 統一ができる
- 全体校正・教授内容・DPとの関連・評価やフィードバックの方法など学生に分かりやすいものに精査できた。
- 学生たちがどのような学びをしているのかを知ることができたこと。
- 判断に困るところは、その場で解決してもらえるところ。
- シラバス記入方法の再確認と自身では気づけなかった記入漏れ等に気づくことができました。
- 普段は見るのことがない、諸先生方のシラバスの内容や記載方法を確認することができた
- シラバスチェックを通して、先生方が授業で行われている具体的な内容について知ることができた。また、到達目標の設定に関する視野が広がった。
- 他の担当科目教員の授業内容及び評価を知れたこと。
- 他科目の到達目標や評価の観点を知れたところ。自身の来年度の授業の方向性が明確になったこと
- 他科目のシラバスを確認することで、自分の科目の内容（事前事後の内容や評価方法）のふりかえりができる
- 他の先生方の評価方法や観点を知ることができた。また、自分のシラバスをチェックしていただくことで、修正点が明確になった。

(3) 改善点について

- ・ 表記方法の統一の視点が有るといいと思った。
- ・ 作成時の書き方の統一
- ・ 今回は、細かな部分の修正（○数字→・など）が多発したため、先生方へのシラバスのご依頼の前によく確認・検討してシラバスのご依頼をするべきだったと反省です。
- ・ 研修内容上しょうがないが、機械的などころ
- ・ 毎年、準備が大変であるが、仕方がない。細かい書式の修正に関して、何か良い方法はないか。現在の Word フォーマットでは書式を自由に変更できることも難点だと思う。
- ・ 学生一人ひとりに応じた関わりに努めるよう、フィードバックの機会を増やしていきたい。
- ・ 折に触れて学生に説明したいと思います。

(4) 自身の授業に生かせることはありましたか

- ・ 授業にというのにはすぐには難しいが、計画の立て方について参考にさせていただきたい。
- ・ 特に課題や評価のフィードバックの方法について改善したいと思います。
- ・ 限られた時間の中で終わらせなければならないので、「チェック」の作業になってしまい、なかなか自分の授業に反映できるところまでは読み込めなかった。
- ・ 自分のペースでじっくり見ることができれば、色々と活かせるような内容が書いてあるとは思った。
- ・ 授業内容に重なりのある科目の内容がざっくり把握できました。科目間連携のきっかけになると思いました。
- ・ 他の科目の内容や方法等を知ることができました。特に、アクティブ・ラーニングの方法など先生方がさまざまに工夫していらっしゃるの、取り入れたいと思いました。
- ・ 事前、事後学習の内容が様々だったので、今後は自身の授業にも活かしていきたい。
- ・ 評価の観点を参考にしたい。
- ・ 様々なアクティブ・ラーニングの方法を知れたので、授業に取り入れていきたい
- ・ 似たような事柄を取り入れている科目を知ることができ、学生に伝える際に「○○でも学んだ」ことを伝えられる。そうすることで、学生の中で内容の統合が図れ、学びの深化につながるのではないかと。また、他科目の演習の方法を知ることができ、自分の授業で取り入れることができるかもしれない。
- ・ 事前事後学習の方法や内容について、今後、学生たちがより取り込みやすいように、さらに工夫したいと思う。

(5) 今後のシラバス作成に生かせること

- ・ Unit ごとの目標を作るのもいいと思った。
- ・ 成績の方法がいくつかあった。
- ・ 事前事後課題やフィードバックの方法などの見直しは今度の課題と考えます。
- ・ 各自持ち帰りで点検し、自分の授業との共通点などを探るところまで、じっくり見れるかもしれない。
- ・ いつでもシラバスは開示されていますが、なかなかこういう機会がないと見ないので。
- ・ 今回と同じミスをしないように気をつけます。
- ・ 表現の仕方など
- ・ 学部の教育目標と担当している授業の内容が一致しているかを確認し、必要に応じて先生方に相談しながらより良い授業を計画していきたい。
- ・ 評価の観点
- ・ 学生にわかりやすい言語表現になるよう修正していきたい

- ・ この時期のシラバスチェック（シラバスのメ切も）は他大学と比較して遅い方だと思うが、他大学の動向を反映できるという点では妥当な時期だと思う。
- ・ 他の方の先生方のシラバスをチェックすることで、授業概要や到達目標、成績評価の方法・基準の書き方などについて知ることができた。用語や表現など、参考にしたいと思う。

(6) 第5回 ポートフォリオの実践と成果

日 時：2025年3月7日（金）15:30～16:30

会 場：宇都宮共和大学長坂キャンパス 研究室（各自）

テーマ：「ポートフォリオの実践と成果」

講 師：宇都宮共和大学子ども生活学部 教務委員会教員

受講者：宇都宮共和大学子ども生活学部 専任教員 15名

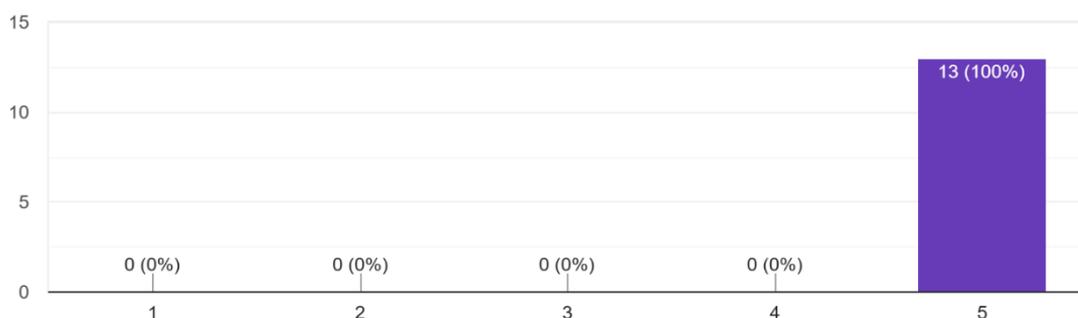
事後アンケート結果：

(1) 本日の研修について

(1は参考にならなかった、5はとても参考になった)

今回の研修会は参考になりましたか

13件の回答



(2) 参考になったこと

- ・ 教学マネジメントの再確認、学生の質的評価を拝見を通して、ポートフォリオの意義を確認できたこと。自身の分析を通じて、在学生の主観的評価と GPA、各学年の目標達成度の関連をみることができたこと。
- ・ ポートフォリオによる質的な学修成果の可視化の取り組みは、学生自身の自己評価の成長プロセスと他者との共有による気づきの広がり、深化という点でも意義のあるものと確認できた。また、統計的なエビデンスを加えることで成果と課題が明確に示せること、研究としても質の高い成果が認められた。
- ・ 学年間の統計的傾向のお話が興味深かった。
- ・ 教学マネジメントの基本的概念。GPA の高い学生や中層、下層のポートフォリオの4年間の変遷。学生の意識の数值的、質的な分析。たくさんのコンテンツがあり、整理できていません。学生一人一人の特性を見ると、学習成果の現れ方も異なると思いました。ポートフォリオでの表現力の GPA と関連すると思いました。
- ・ 感覚として捉えていたことをデータで表していただき、納得しました。
- ・ 保育者効力感と教育目標の達成についての関係や、GPA との関係について知ることができ、とても勉強になりました。
- ・ ポートフォリオで学びのプロセスを可視化することで、学生の成長や変容の姿がよく理解でき

ました。学生の学びのプロセスや連続性を把握して、自身の授業内容、組み立てにも繋げていきたいと思いました。

- どの資料も面白く、興味深かった。
- 各学年の傾向を知ることができたこと。
- ポートフォリオ作成の手順から、発表までの概要を知ることができたこと。
- 自由記述の内容が数値で示され、納得のいく結果で興味深いと感じた。
- 学生の保育の学びを捉えていく上で、とても参考になった。
- ポートフォリオの4年間の変遷から、本学のDPに向けた学びの道筋が読み取れて興味深いと感じた。特に人間形成の面において、仲間や教員との関わりも含め、GPAには現れない多面的な学びを得られているのではないかと感じた。
- ポートフォリオの内容に授業以外のガクチカについての記述があまり出ないので、学生達がもっと幅広くいろんな活動に携わることも必要かと感じた。4年間の中で特に2・3年生への授業内容やフォローが肝心だと思いました。
- ポートフォリオの実際を、学生の個別の取組の紹介でも知ることができた。学生の成績水準に関わらず、ポートフォリオが意義があることがみてとれた。また、統計的な分析に基づく発表も非常に興味深く、今後の蓄積が期待される。

(3) ポートフォリオを今後どのように活用していきたいか

- 基礎的エビデンスデータに則って、学生の質的支援方法を検討し、教員間で共有する。
- 学生の学びの成果を可視化する方法として確立されてきているので、この方向で実績とデータの積み上げを進めていってほしい。その成果を研究としても発表されることを期待する。学生同士の交流や報告会はとても良い取り組みでした。
- ポートフォリオを使う良さは、教師が行う到達度に合わせた評価とは別に、学生の評価意識を高め、プロセスを重視した自己評価を行わせ、教員もそのプロセスに積極的に関与することが重要だと思う。ポートフォリオを使うからには、私たち教員が個人内評価や形成的評価を充実させ、プロセスフィードバックを重視することが大切ではないか。
- 4年間の積み重ねで、まとまったデータになっているので、個々の学生へのアプローチに生かせそうです。
- まずは継続
- 学生面談や学生指導でも活用できると良いと思います。
- ポートフォリオの取組みから繋げられるかはわかりませんが、学生の学びの内容を知ること、授業間連携のヒントが得られるように思いました。
- 比較できるような形で内容を変えずに継続することが大事だと思う。
- 今の方法で充分ではないでしょうか。
- 教員側の活用方法としては、実習巡回で担当になった学生や授業で気になった学生については、時々、ポートフォリオを見るようにしている。いつでも見れるようにして下さっているのが助かります。
- それぞれの学年の学生がどのようなことを学び、感じているのかがとても分かりやすかったため、このような内容をオープンキャンパスで高校生の方々に伝えることで、より子ども生活学部でのキャンパスライフをイメージできるのではないかと思った。
- ポートフォリオに対するフィードバックがあると、より学びが深まるのではないか
- ポートフォリオは作成するだけでなく、さらにそれを仲間と分かち合うことで、相互に刺激を与えあい、学修や実習、生活面での意欲や取り組みにあたえる影響が大きいことを実感しました。

- ・今年のように、学年内でのグループシェアや発表、4 学年合同でのシェアや発表の機会はぜひ今後も続けてほしいです。

(4) 感想・意見

- ・発表者として貴重な機会でした。ご意見いただきありがとうございました。
- ・桂木先生、市川先生、霜触先生、大変な労力で学生指導と成果報告まで繋げていただき、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。
- ・ただの一般論で恐縮ですが、評価は教員の指導改善と学生の学習改善のためのものである。GPA の統計的な傾向の部分については、GPA だけでは見取れない良さという統計的なお話も納得できるものではあるが、一方で、GPA が高くてもそれが学生の自信や力になっていないのであれば、2, 3 年生が指摘するアンケート結果は的を射てるとも考えられるのではないかと。真摯に受け止めて授業改善に努めるという視点も大切だと考える。
- ・学習成果の可視化がなぜ必要か、桂木先生のお話は、毎年必須です。年度終わり・新年度スタート前の時期に、本学部の教育の目指すところの確認も含めて大切だと思いました。
- ・霜触先生、興味深いデータをありがとうございます。ぜひ継続を希望いたします。
- ・この取り組みを今後、どう重ねていくか、ぜひ先生方にご助言いただきたいです。
- ・ありがとうございました。
- ・お忙しい中ご準備いただき、ありがとうございました。とても分かりやすく、興味深い研修でした。
- ・ここまでのご準備、大変だったと思います。お忙しい中、大変丁寧な研修をありがとうございました。
- ・霜触先生、丁寧な分析をありがとうございました。
- ・人生の中でこんなにしっかりと4年間を振り返る経験はないと思います。4年間の自分の考えていたことを振り返り、新たにまとめる。ここまでは個人で経験できることですが、それを発表形式ではなく、他学年も含めた多くの他者と共有し合うという方法は大学ならではのことで、自分自身の営みや考えを様々な角度から客観的に知る機会になったのではないのでしょうか。学生たちは本当に貴重な経験をしたと思います。
- ・実は学生たちが「ポートフォリオ面倒くさい」と言っているのを度々耳にしてきましたが、この経験は今後の学生たちの社会生活の中で必ず役立てられるものだと思います。今度そのような言葉を聞いたら「うちの大学に来た最大のメリットだから頑張れ！」と伝えます。
- ・卒業生まで1巡したので、今後、FD でこれをどう扱っていくか？相談させていただきたい。毎年するか？隔年でよいか？など。
- ・これまであまり知ることができなかった学生の学びや考えを知ることができ、とても勉強になった。
- ・ポートフォリオについての学びが深まりました。
- ・霜触先生の多角的な分析、素晴らしかったです。ありがとうございました。
- ・1 学生の個別のポートフォリオを成績水準別に紹介いただき、成績低群にいる学生であっても、自己の学びを客観的にとらえることができているのは、ポートフォリオ作成という機会とその積み重ねがあつてこそと、意義を感じた。実習や単位で不本意な結果だったにもかかわらず、それを含めて「人として成長できたと思う」というコメントは、本学の精神をまさに具現化しており、本人の取り組みや成長を感じると同時に、教員の連携した指導の賜物であるとも感じ、胸が熱くなった。
- ・今年初の試みである 4 学年合同シェアは、参加していても学生の意欲や手ごたえを感じたが、客観的なデータとしてみることで、改めて意義深いことと感じた。

- ・ ポートフォリオを学生が意味を理解して取り組めるようにご指導を続けてくださった教務の先生方、今回まとめてくださった先生方のご苦勞に感謝申し上げます。

(5) 次年度の FD 研修の内容

- ・ 各教員の研究紹介
- ・ 今回の課題として、学生個々の成長変化を質的に探究するということを進められると良いかと思ひます。ポートフォリオの成果・効果をさらに継続して検証していく FD に期待しています。
- ・ このお話は毎年年度末にやるのはいいことだと思ひます。経年変化などがよくわかり、自分の指導内容を見直す機会になると感じた。
- ・ アクティブラーニングの手法や内容
- ・ 他大学でのポートフォリオの活用方法について知りたいです。
- ・ 評価(成績)について、合理的配慮について、子どもや保育関連の最近の政策について等
- ・ DP、CP 等の到達の為、各授業担当で取り組んでいることを共有する。
- ・ ICT の活用について
- ・ 質的研究の研究方法について
- ・ 今回のようなポートフォリオ研修を年 1 で継続し(どこかで発表するまでの間)、ブラッシュアップして、本学の取組みとして発表してほしいです。
- ・ 合理的配慮が必要な学生が増えてきており、法律でも義務化された中で、他の大学で合理的配慮の実践をどのように行っているのか、実際の事例をしりたいです。
- ・ 理念や必要性の学習ではなく、支援体制や個別対応の事例をしような研修があると、まず教員間で認識を共有することができ、本学で何ができるのか(何は難しいか)など検討する上で役にたつのではないと思ひます。

V. 教員相互授業参観

FD研修の一環として教員相互授業参観を実施する。

教員相互授業参観は、参観者が参観により得た気づき等を自分の講義に実践的に生かすことにより授業改善の一助とすることを目的としている。

1 実施方法

(1) 参考にしたい講義を選び、実施期間内に参観する。

- 最低1回参観をする(2回以上参観してもよい)。
- 原則、専任教員による授業を参観する。
- 事前に参観を希望する講義担当者の了解を得る。
- 開始から終了までの90分間を参観する。

(2) 参観後、以下をまとめて報告書を作成する(報告書様式については3参照)。

- 参観した日時・講義名・教員名および参観の記録
- 参観を踏まえた自分の担当講義における改善点などの感想

2 実施期間

2024年7月3日(月)から2025年1月11日(土)まで

3 報告書について

- 「新サーバー」フォルダの以下の場所に報告書様式があります。記入の上、同じフォルダ内に提出してください。

「各学部学科委員会フォルダ」→「子ども生活学部」→13「自己点検・評価推進部会」→「FD部会」→「2024」→「教員の相互授業参観」→「報告書様式」

- 提出期限

春・秋学期分：2025年1月31日(土)

4 その他

- 参観者は参観中に学生に話しかける等の私語や迷惑行為を慎む。
- 受講ではなく参観であるため、参観者は講義中には質問や意見などの発言はしない。
- 報告書は「FD活動報告書」の一部として掲載する。

2024 年度教員相互授業参観報告書（子ども生活学部）

参観者	参観日時	参観科目	授業教員
河田 隆	2024年12月18日2限	オーラルイングリッシュⅡ	阿部 巧
杉本 太平	2024年12月3日1・2限	保育内容総合演習Ⅰ	市川 舞 他
桂木 奈巳	2024年6月20日3限	保育内容健康	田渕 光与 他
田渕 光与	2024年6月21日3限	障害児保育	松岡 展世
蟹江 教子	2025年1月24日2限	保育内容総合演習Ⅰ	市川 舞
月橋 春美	2024年12月16日1限	教材研修（健康と運動）	河田 隆 他
市川 舞	2024年12月18日4限	保育指導法Ⅰ	山崎 英明
星 順子	2024年7月24日3限	社会的養護Ⅱ	石本 真紀
石本 真紀	2024年6月25日4限	障害児保育	松岡 展世
松岡 展世	2024年6月6日4限	オーラルイングリッシュⅠ	阿部 巧
新井 祐子	2024年6月17日3限	保育内容表現	月橋 春美
大島 美知恵	2024年6月27日2限	生活講座Ⅰ	桂木 奈巳
阿部 巧	2024年6月17日3限	人間とは何か	杉本 太平
霜触 智紀	2024年6月17日3限	保育内容表現	月橋 春美
小野 貴之	2024年6月24日3限	人間とは何か	杉本 太平

教員相互参観報告書

2024年1218日

参 観 者 氏 名	河田隆
参 観 日 ・ 時 限	12月 18日 2 時限
科 目 名	オーラルイングリッシュⅡ
担 当 教 員 名	阿部 巧

参観の概要

試験の説明後、今回の授業内容に入った。すべて英会話で授業が進められた。本日の導入はアルファベットや数字の発音内容であった。グループ・ワークのゲームを取り入れ学生は楽しい雰囲気の中進められていた。B・D・V や M・N 等のお発音を意識して確認していた。また数字の～teen の発音を意識して確認していた。全体的に楽しい雰囲気の中授業が展開されていて、良かった。

自分の講義の改善点

授業の導入として楽しい雰囲気を取り入れ展開する方法はとても良かった。授業の内容に工夫したゲーム等を取り入れ進めることにしようというところが今後の授業改善点である。授業導入のアイスブレイキングはとても重要であり学生の授業に対する姿勢をはじめに作ることで、教育の目的達成に多いに近づくことと思う。今回の授業参観で授業の展開として導入の工夫を考え今後の授業に生かしていきたい。

教員相互参観報告書

年 月 日

参 観 者 氏 名	杉本 太平
参 観 日 ・ 時 限	12月 3日 1・2 時限
科 目 名	保育内容総合演習 I ・フィールドワーク I ・保育内容総論 認定しらゆりこども園 交流保育
担 当 教 員 名	市川 舞 桂木奈巳 他

参観の概要

<p>テーマ：秋の自然に親しむ 参加者：認定しらゆりこども園園児 年中児 91 名 引率保育者 9 名 子ども生活学部 1 年 内 容：子どもの森の自然に親しみながら子ども達は自由に森を探索し、発見や見立てなどを楽しんだり、体を動かしたりする。学生達は子ども活動を見守りながら観察する。子どもの発見や疑問、子どもからの話しかけや要求に応じながら、子ども達が自然に親しめるように配慮して関与する。安全・けが等に配慮しながら子ども様子を観察する視点や子どもの気づきや行動の意味を考えて、即時的に対応することができるような、体験学習となる。</p>
--

自分の講義の改善点

<p>子ども達の自然体験や自然素材用いた遊びの意義や学び・育ちを捉える視点を、学生の気づきを実践から広げられるように、教材の開発や工夫ができるような、観察ポイントを検討して、自身の授業に活かしてけるようにしたい。</p>
--

教員相互参観報告書

2024年6月20日

参 観 者 氏 名	桂木 奈巳
参 観 日 ・ 時 限	6月20日 3時限
科 目 名	保育内容健康
担 当 教 員 名	田淵光与先生、霜触智紀先生

参観の概要

<p>6月19日（水）に実施した宇大付属幼稚園での観察の振り返りを行なった。 引率した教員が撮影した動画を紹介して、その場面での子どもの気持ちを紹介・想像しながら解説を行なった。子どもと同時に先生の様子にも気づかせていた。 年齢別の特徴的な遊びの場面や時間の過ごし方、体を動かす場面・環境等を動画で解説しながら示していた（3歳・ゆったり、生活のリズムを身につける過程の紹介。4歳：友達とみんなで楽しく遊ぶ、こだわりが出てくる場面、5歳：目的を持って体を動かす、友達を応援する、お化け屋敷とステージ→本物そっくりにしたい 等）。 その後、グループに分かれ、各学生が見た場面・発達の共有を30分程発表された内容は年齢別に教員が板書をして内容を整理し、視覚的に分かりやすいように示していた。遊びの場面を発達に置き換えることを行っていた。</p>
--

自分の講義の改善点

<p>実施の翌日に振り返りを実施することで学生の学びがより深まった様子であった。 時間がない状態でも課題を仕上げてくる学生が多く、現場に出て観察する経験は、学内の授業と比較して、学生にとっても心構えが異なるのだと感じた。 教員が撮影した動画を示して体験を振り返る場面では、発達を踏まえた解説を同時に行なっており、学生の理解も深まった様子だった。その後の振り返りの際に、この事がしっかり反映されていたように思う。 領域健康だけでなく、他領域の視点も教示し、総合的に学べる非常に良い授業だと感じ、私自身が受講してよかったと思った。 今回の講義では、効果的な動画の使い方も学んだ。現場経験がある教員が撮影する動画は視点が定まっており、わかりやすく勉強になった。 自分自身の授業を振り返ると、子どもに関する教材の不足を感じた。学内で行う交流保育や学生引率で現場に行く時を活用して教材を充実させたい。</p>
--

教員相互参観報告書

令和6年 6月21日

参 観 者 氏 名	田 淵 光 与
参 観 日 ・ 時 限	6 月 2 1 日 1 時 限
科 目 名	障 害 児 保 育
担 当 教 員 名	松 岡 展 代 准 教 授

参観の概要

<p>スライド資料に、本日の授業のゴールを適切に示し、学生と確認してから授業を始めていた。当日は障害のある子どもの姿、成長・発達には職員間の連携・協働が大切であることを理解するために、いくつかの観点のループリックを示されていた。</p> <p>ポイントについて解説があった後、保育者として、実際に遭遇するであろう具体的事例で、学生が考える時間があり、グループで意見を出し合い、多様なアプローチを得ることができるように構成されていた。</p> <p>子どもや保育者の行動を多様に理解した後で、また、ポイントについて解説を挟む丁寧な指導がなされていた。</p> <p>スライド資料は教科書との整合性が図られており、見やすく整えられており、自分の学びを確認する際に有効なものになっている。</p> <p>終末には、秋学期に模擬事例検討会があることを予告され、学生は学びの見通しをもつことができていた。</p>

自分の講義の改善点

<p>授業のゴールを示すことで、学生が学びにも通しが持てるため、自分自身も取り入れていきたいと感じた。</p> <p>教師の考えを押し付ける感じが全くなく、子ども主体でできごとを考えることが重要であることが自然と伝わる点の大本について考えながら実践に取り入れていきたい。</p> <p>始終優しい語り口で、学生を尊重する言葉遣いに、先生の思いが現れており、学生を尊重する言葉遣いは、常に意識していきたい。</p> <p>長期スパンでの学びの発展が見通せる展開を取り入れたい。</p>

教員相互参観報告書

2025年 1月 24日

参 観 者 氏 名	蟹江 教子
参 観 日 ・ 時 限	1月 24日 2時限
科 目 名	保育内容総合演習 I
担 当 教 員 名	市川 舞 教授

参観の概要

学生（1年生）は動きやすい服装でアリーナに集合していた。担当教員から簡単な説明の後、園外保育の子どもたちが来たらずぐに活動に移れるように準備をしていた。アリーナでの工作、アスレチックと外遊び（芝生でのボール遊びなど）の2グループに分かれて子どもたちの遊びを支援した。

子どもから近寄られる学生もいれば、自分から子どもに積極的に働きかける学生、何をしたらよいのか戸惑っている学生など様々であった。時間が経つにつれて慣れてきたのか、大半の学生は子どもたちの気持ちをくみとって支援できるようになっていた。しかし、最後まで上手に遊べない学生がいた点が気になった。

自分の講義の改善点

講義形式の科目と異なり、実践を伴う学びでは普段見ることができない学生の姿を見ることができた。自分の行動や働きかけに対してどのように子どもが反応するか、瞬時に結果が出ることは学生にとって恐怖であるがその一方で喜びややりがいにつながるように思えた。

担当する授業科目では毎回、講義内容と目的を示しているが、さらに一歩進んで中期的、長期的にどのような意味を持つのか、示すことも大事だと考えた。

学生の授業に対するモチベーションを考えると、将来的、あるいは保育者になったときにどのように役立つのか、間接的であっても示すべきだろう。

実践が上手にできない学生（子どもとのコミュニケーションが上手に取れない、どのように遊べばよいかわからないと思われる学生も散見された）への指導が大事であり、進路変更も含めて知恵を絞る必要があるだろう。

教員相互参観報告書

2025年 1月 10日

参 観 者 氏 名	月橋 春美
参 観 日 ・ 時 限	12月 16日 (月) 1限
科 目 名	教材研究 (健康と運動)
担 当 教 員 名	河田 隆先生、霜触 智紀先生

参観の概要

<p>1 限にグループで平均台を使った運動遊びを考え、2 限に発表をする授業内容であった。</p> <p>授業はアリーナで行われた。授業開始時は、教員の声掛けにより、学生たちは教員を中心にきちんと集まり、挨拶をした後に座り、授業が始まった。とても寒い環境ではあったが、学生たちは、私語をすることなく、教員の話に耳を傾けていた。教員からは、最初に今日の授業の流れについて説明があり、その後、運動遊び指導を行う際の注意点や準備運動の大切さについて話があった。まずは、子どもたちに話をする際の環境づくりについてである。①立つ、②集まる、③座る。こうすることで話をする環境づくりをすることが大切である。きちんと並ばせる、集まることで、子どもたちは緊張感を持ち、しっかりと話を聞くことができる。学生たちも同じである。また、準備運動は、こころの準備も含んでおり、モチベーションの準備でもある。準備運動はどの教科でも大事であり、子どもたちだけでなく、学生にとっても大切なことであると伝えていた。学生たちはとても真剣な態度で話を聞いており、その姿がとても印象的であった。教員は、話をする際、学生たちに問いかけながら、また、学生たちの反応をみながら、時折、学生たちに質問するなどして、学生たちの理解を深めているように感じた。私も緊張感を感じながら、授業参観をさせていただいた。教員の話が終わると、学生たちはグループに分かれ、平均台を使った運動遊びの創作活動を始めた。質問のある学生は、2名の教員の所へ質問に行っていた。学生たちは寒い中ではあったが、積極的に創作活動に取り組んでいた。</p>
--

自分の講義の改善点

<p>参観をして感じたことは、とても緊張感のある授業であり、自分の授業でも、こういう雰囲気を作りたいと思ったことである。実技の授業では、学生たちがワイワイガヤガヤ楽しそうに授業に参加していることが多く、楽しく授業に参加してもらえているのは嬉しいことではあるが、指導のポイントなどを伝える時は、メリハリをつけて授業に参加してもらえよう、今後は雰囲気作りを工夫したいと思った。また、実技の授業においては、緊張感を持って参加してもらうことで、授業中の怪我の防止にもつながると考える。</p> <p>今回学んだことを、今後の自分の授業に活かしていきたい。</p>

教員相互参観報告書

2024年12月18日

参 観 者 氏 名	市川 舞
参 観 日 ・ 時 限	12月 18日 4時限
科 目 名	保育指導法 I
担 当 教 員 名	山崎英明先生

参観の概要

校外学習として、学生が保育助手として保育に参加させていただいた。朝、園長によるオリエンテーションで園の概要や子どもの生活の様子をお話いただき、各学生がそれぞれの配属クラスに入らせていただいた。その後、1号認定の子どもの帰園後にクラス担任と振り返り、さらに、15:30 過ぎから園長と学生が集団で振り返りを行った。

【園全体の保育に対する見方・考え方のレクチャー】—【各クラスの保育の実態と振り返り】—【園全体の保育の振り返り】の一連の流れで、保育の基本と具体（実践）について学ぶことができ、学生は理論と実践の結びつきを実感を伴って学ぶことが出来た。

また、各クラス2～3名配属されるため、具体的な経験を共有し、出会った事実について語り合うことができるため、自分の見方・考え方・かかわり方を省察するよい機会となっていた。

自分の講義の改善点

「実習指導」や「交流保育」、「保育内容総合演習」など、保育の基本的な理論と実践とを結びつけながら、保育の理解を深める、教材研究をする、記録—指導計画立案について考える授業が多いため、非常に参考になった。

「実習指導」を担当していると「書く」指導を重視せざるを得ないが、「書く」前に「語り合う」ことの有効性を確認できた。文字としてあらわすことを求める前に「語る」ことで、学生自身が自分がとらえたモノゴトの意味を自覚するようだった。そこに、教員が言葉を添えて認めたり、広げたり、深めたりすることで、学生が自分自身の学びを実感していた。

こうしたことから担当している授業においても、「語る」ことによる言語化から「書く」ことによる言語化への流れを意識していきたいと考えた。ただし、「語り」っぱなしで気づきにとどまらず「学び」になるようにならないよう、「語り合う」状況づくりや書き言葉にしていく指導についても検討していきたい。

教員相互参観報告書

2024年7月24日

参 観 者 氏 名	星 順子
参 観 日 ・ 時 限	7月 24日 3時限
科 目 名	社会的養護Ⅱ
担 当 教 員 名	石本 真紀

参観の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童発達支援センターのドキュメンタリーの視聴(前の授業からの続き) 子どもも親も支援するという、ある団体の取り組みを視聴した。「子どもの意見」を尊重しながら支援する大人の姿は、子ども支援に関わる際に何を大切にすべきかが問われるような内容であった。 ・ グループ発表：課題のプレゼンテーション 前日までの課題で、各自クロームブックのスライドを使用して「理想の児童福祉施設」の発表資料を作成。資料項目は、理念、施設概要、一日の流れ、施設が求める人材像、参考文献リスト等であった。5,6人のグループで発表しあい、ワークシートにその内容を整理するという内容であった。施設が求める人材という項目では、学生は、児童福祉施設の保育者という立場を模擬体験しているような様子で発表していた。また、ワークシートに示された「子どもたちが求める人材は？」という問いでは、児童福祉施設の子どもの立場を想像させていた。保育者と子どもの両者の立場を踏まえて、支援とは何かを考えさせる内容であった。
--

自分の講義の改善点

<ul style="list-style-type: none"> ・ NHKのドキュメンタリーを授業教材として活用されていた。「社会的養護の課題と展望」という授業のテーマやねらいに一致した教材であり、教員の解説が加えられたことで、最新の情報(児童福祉法の改正や子ども基本法)にも結び付けて理解できる内容であった。自身の授業でも、教材研究を丁寧に行うことと最新の情報を実践と結び付けて伝えることの必要性を感じた。 ・ クロームブックを利用したグループ発表という方法はとても参考になった。全員が同じテーマと項目で作成しているが、それぞれの個性や価値観が反映されたプレゼン内容で授業の理解度も読み取れる内容となっていた。今後の授業で取り入れてみたい。 ・ 授業のねらいに一致した教材、課題、問い、資料と思いのこもった言葉を用意されていた。丁寧な授業設計、事前準備を充実させることの重要性を理解した授業であった。

教員相互参観報告書

令和6年 7月 1日

参 観 者 氏 名	石本 真紀
参 観 日 ・ 時 限	6月25日 4時限
科 目 名	障害児保育
担 当 教 員 名	松岡 展世

参観の概要

「家族・きょうだい児に対する理解」というテーマであった。施設実習直後ということもあり、学生たちも障害についての理解が深まった時期であった。授業の始まりに前回の振り返りとして学生のコメントシートの共有をしていた。学生自身が授業をどのようにとらえ何を理解したのか、学生自身の気づきや学びに対して丁寧にコメントし今回の授業につなげていた。

障害のある子どもの親のストレスや障害受容のプロセスをもとに保育者に求められる支援や連携のコツ、実践例、きょうだい児への保育者のかかわりなどを優しい語り口で丁寧に授業をおこなっていた。テキストをもとに作成された配布資料がとても見やすく、学生たちも集中して授業を聞いていた。

自分の講義の改善点

授業開始時に前回の振り返りを丁寧にされていた。学生のコメントシートを細かく見て学生の意見をまとめ、スライドに写し、丁寧にコメントしていた。学生からのコメントを口頭で伝えてはいるが、スライドに改めて移す機会は少なかったため今後は多く取り入れていきたい。

施設実習後の授業ということもあり、障害のある子どもや大人の方々とのかかわりについて触れ、学生の反応を見ながら授業を展開しており、学生の学ぶ意欲を引き出す授業展開であった。今後の参考にしたい。

障害児保育は保育実習指導の事前事後学習に深く関連する科目である。社会的養護とともに科目間の連携をより深めていきたい。

教員相互参観報告書

2024年12月26日

参 観 者 氏 名	大島美知恵
参 観 日 ・ 時 限	6月 27日 2時限
科 目 名	生活講座 I
担 当 教 員 名	桂木奈巳

参観の概要

<p>洗濯に必要な洗剤と水について、講義とワークを通して学ぶ内容であった。</p> <p>洗剤については、実験を通して油をはじく様子などを実際に見ることにより、洗剤の種類による効果の違いについてリアルな感覚を通して学ぶことができていた。また洗剤を使用する際の注意点について、過去の重篤な事件例などから、洗剤を誤って使用した場合のリスクを学び、正しく扱うことの重要性が示されていた。</p> <p>水はとても身近なものであるが、硬水と軟水などを実際に試飲することにより、その違いを体感できるよう工夫されており、学生たちも感想を互いに述べ合いながら積極的に学ぶ様子が見られた。</p> <p>実際に子どもたちの肌に直接触れる衣料の洗濯方法は保育者として必要な知識の一つであり、そこに必要な洗剤と水の重要性について知識と体感を通して深く学べる内容だった。普段何気なく使用しているものだけに、改めて認識できた授業は意義深いと感じた。</p>
--

自分の講義の改善点

<p>自分も講義だけではなく、ワークを伴う授業が多い為、道具や材料の準備が必要であるが、あらかじめグループごとに分けておく方法や、様子を見ながら数や量が変更になった際の臨機応変な対応等々が参考になった。</p> <p>またワークを1つ行ったら、そのまとめを行うというように、講義とワークのセットを小分けにすることで学生達が集中していたように思う。自身の担当しているリトミックのように身体を動かす授業では、最初か最後に着席して講義を行い、間はワークを続けることが多いが、今後、検討していきたい。</p> <p>また発表形式にまとめる、書き留めるということだけではなく、学生同士が何気なく感想を述べあっている時間も重要な学びの時間と感じた。多くを学ばせようと直ぐに次の課題に移るのではなく、そのような自由に意見を述べあう時間も大切にしていきたい。</p>

教員相互参観報告書

2024年6月7日

参 観 者 氏 名	松岡 展世
参 観 日 ・ 時 限	6月 6日 4時限 (多目的)
科 目 名	オーラルイングリッシュ I A
担 当 教 員 名	阿部 巧先生

参観の概要

授業は終始、英語により行われ、ビンゴゲームを用いたアクティビティを行った。冒頭で、担当教員から相手に好きな色や生まれ月などを質問する簡単な質問文のレクチャーがあり、その後、2列に向かって並び、2人組で質問をしあって、各自が任意に記入したビンゴシートに記入していく。授業では、文法的や発音の正しさよりも、相手に伝わることを重視しており、学生達は楽しそうに取り組み、伝わらない時は他の表現を試行錯誤していた。授業は最後まで笑顔と笑いと挑戦にあふれていて、英語を使う成功体験が積み重なっていることが見て取れた。1回の授業で学ぶ目標や使える表現を明確にし、それを使いたいという意欲を引き出す構成と工夫に大変感銘を受けた。また、授業後に担当教員に伺ったところ、席ぎめでペアを作り定期的に組み替えをすること、自作動画の課題を提出し、実際に英語圏の相手や同世代の学生に向けてメッセージを作成しフィードバックをもらうなど、さまざまな面で、学生の主体的な参加意欲を引き出し、コミットさせる画期的な工夫が多くあることが分かった。

英語に苦手意識を持つ学生が多いが、このようなやり方で実践的に英語を使う面白さを体感することで、苦手意識を払拭し、勉強のための英語学習ではなくコミュニケーションの道具として身に着けたいと思う学生は多いのではと感じた。

自分の講義の改善点

- ・「この授業で何を学ぶのか」を学生に提示することはこれまでもしていたが、提示するだけでなく、その学びを確実に身に付けられるために学生が活用するためのステップバイステップの工夫を取り入れたい。たとえば、身体発達の知識を学んだ後に、学んだ知識を踏まえて、提示した年齢の子どもにふさわしい遊びを考えるなどである。
- ・講義形式の授業の中でも、学びの確認をできるようなゲーム形式のアクティビティを取り入れることを検討したい。

教員相互参観報告書

2024年 6月 30日

参 観 者 氏 名	新井 祐子
参 観 日 ・ 時 限	6月 17日 3 時限
科 目 名	保育内容（表現）
担 当 教 員 名	月橋 春美 先生

参観の概要

当日は「表現」授業14回目、グループごとに劇を発表する回であった。
 劇の内容は既存のものではなく、それぞれオリジナルの脚本を考え、場面に合わせた背景や道具の制作、衣装の準備、効果音やBGMを用いた音響などの演出も自分たちで行っていた。役を演じるだけに留まらない、多角的かつ総合的な表現活動であった。発表した4グループそれぞれに個性があり、グループのメンバーが共通のイメージを持ち、意見を出し合い、主体的に準備をして本番を迎えたことが窺い知れた。劇を演じる学生の姿からは、普段の学生生活では見られないような躍動感を感じた。また、各グループの発表を鑑賞することで他者の表現を認め、気付きを得ている様子も見られた。保育の現場において子どもの表現を育むとき、保育者は受容者と発信者の役割があると思うが、双方を学ぶのにとっても有意義な授業であると感じた。

自分の講義の改善点

学生が意欲的に表現活動を行っている姿が印象的であった。担当教員は、学生の主体性を重んじつつ、必要な場面において的確に助言をしていることが見て取れた。自身が担当する音楽科目は、音楽基礎知識の習得やピアノや歌などの個々の演奏技術の向上のみに意識が向かいがちであるが、学生に主体性を持たせ、子どもの音楽表現活動を考案、実演、鑑賞する機会も授業の中に設けたいと感じた。保育内容に生かせるよう音楽のアクティブラーニングを増やしていきたい。

教員相互参観報告書

2024年 6月 17日

参 観 者 氏 名	阿部 巧
参 観 日 ・ 時 限	6 月 17 日 3 時限
科 目 名	人間とは何か
担 当 教 員 名	杉本 太平 先生

参観の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・「人間」に関連したテーマでレポートの作成に取り組んでおり、本時はその中間発表であった。 ・それぞれが自分のテーマに基づいて準備してきたワークシートを使い、グループごとにレポート作成に向けて意見を交流していた。時折、杉本先生から全体で話題を共有する場面を設けるなどの指導を行っていた。 ・また、交流する時間をしっかりと確保しており、どのグループも議論を深めることができていた。
--

自分の講義の改善点

<ul style="list-style-type: none"> ・活動がすべてペアで行うことが基本となっている。時折、歌やゲームではグループでの活動を取り入れているが、グループでのびのびと交流する様子から、英語においてもグループで話すような活動が必要だと痛感した。一方で、限られた英語力でどのようにグループでの活動につなげるかは検討が必要である。 ・短い間隔の活動を多く取り入れている。(2分でペアを変えるなどの活動を何度も繰り返すなど)しかし、長い時間をとる活動は取り入れていないので、ある程度まとまった時間を与え、話すことができるような指導をする必要があると感じた。 ・オーラルイングリッシュという講義の名前から、口頭による英語を指導している。しかし、学生がレジメのようなものをまとめている様子から、英語でも文章を書くような指導を行うことも考えられると感じた。メインはオーラルなので発表なのだが、その際のメモを英語で作るなど取り入れていきたい。
--

教員相互参観報告書

2024年 7月 6日

参 観 者 氏 名	霜触智紀
参 観 日 ・ 時 限	6月 17日 3時限
科 目 名	保育内容（表現）
担 当 教 員 名	月橋春美 先生

参観の概要

今回は、学生たちが企画・運営した劇遊びの発表の回であるとともに総まとめの回であった。学生は4グループに分かれて各々の劇のテーマを決め、それに沿った構成を組み、劇として表現した。学生たちは、どのような箇所に重きを置くのか、盛り上がりはどこか、見ている側に何を訴えるのか等を試行錯誤し、劇に取り入れる様子がみてとれ、その意味や意図を組み取るよう授業観察した。

自分たちで企画・運営した劇遊びを行うことはかなり実践的な学びである。そのなかで良いところ、改善が必要なところ等を反省し、多くを体感していたように見てとれた。

自分の講義の改善点

参観者自身は、今年度より保育内容（健康）を担当しており、他の領域との関連をもたせることが必要と考えた。そこで今回は保育内容（表現）を参観し、どのように学生が学びを深めているかについて、勉強させていただいた。

参観者の担当する体育・スポーツ系の授業では、身体活動を伴うものが多くあり、幼児に対する運動遊びを教授するものも担当している。特に表現遊びは徒手的運動、手具的運動、器具的運動のいずれにも応用可能な遊びである。また表現能力は子どもたちの豊かな想像力を育成するためにも保育者自身に必要とされるスキルといえる。今回の参観で、アクティブラーニング形式の授業をより積極的に取り入れ、早期から表現スキルを保持することができるように支援していきたいと感じた。

今回学んだことを活かし、自身の授業を改善していきたい。

教員相互参観報告書

2024年 6月 28日

参 観 者 氏 名	小野 貴之
参 観 日 ・ 時 限	6月 24日 3時限
科 目 名	人間とは何か
担 当 教 員 名	杉本太平先生

参観の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「遊び」の中から「育ち」を考え、子どもの「遊び」には人の育ちにかかわる大切な要素があることを学ぶ ・「遊び」を「科学」していくことは「人間追求」にも繋がることである。そして、遊びを考えていく中で子どもの遊びの意味と豊かな遊びを支える保育者の役割や保育の魅力を考える。 ・乳幼児期に体験した遊びから何が育ったかを考えるために、グループワークを行う。話し合いの中で出てきた遊びの例から一般共通性、典型類似性、個別差異性に分けて考えていくことで、「遊びの意義」を考える機会を設ける。

自分の講義の改善点

<p>参観した授業内容を踏まえて自分のこれまでの講義を振り返り、以下の改善点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と魅力の探求 保育者がどのように遊びを支える役割を果たしているのか、具体的な事例やエピソードを通じて説明する。また、保育者としてのやりがいや魅力を学生に実感してもらうためのディスカッションを行う。このディスカッションでは、保育者が日々の業務を通じて感じる達成感や、子どもの成長を見守る喜び、保護者との信頼関係の構築など、保育者の仕事の魅力ややりがいについて学生同士で意見を交換する。 ・グループワークの導入 学生同士の話し合いを促すために、グループワークを積極的に取り入れる。具体的には、各自の幼少期の遊びを振り返り、それがどのような成長に繋がったかを話し合う活動を実施する。この中で、共通点や違いを見つけ出し、それを元に遊びの意義を考える。 これらの改善点を講義に取り入れることで、学生が遊びの持つ重要性を深く理解し、保育における遊びの役割をより具体的に学ぶことができるように努める。

VI. まとめ

2024年度FD活動は、昨年につき、学生による授業改善アンケートや相互授業参観の取り組みと、昨年度の研修の評価や要望を踏まえた研修会の開催の二つの事業で活動を進めてきた。

学生による授業改善アンケートを基にした取り組みとしては、学生の学びが充実した点について確認し発展するとともに、ポイントが低かった「授業外の学習」が充実するよう、授業と事前事後の課題の必然性を図るなど、改善に努めてきた。さらに、教員相互の授業参観を通して、教員が自分の授業に取り入れたい視点や方法などについて、科目の特性を踏まえつつ授業改善に取り組んだ。

二点目は、FD研修会の取り組みである。学科にとって喫緊の課題であるテーマを掲げ、7回の研修を企画し、教育・研究内容及び教育方法の改善に組織的に取り組んだ。

その中でも、高等教育段階における合理的配慮については、合理的配慮の定義や原則を知り、できることとできないことの合意が非常に重要であることを学んだ。今後、個別事例的な検討が求められると考えられるため、今後も教員間での情報の共有に努めたい。

昨年度につき実施したシラバスチェックにおいては、チェックとして他の科目のシラバスを読み込む中で様々な気づきがあり、全員がカリキュラム実施の基本方針を再確認することができ、新年度への指導の質担保につながった。

さらに、学生自身が自分の学びを可視して捉えるポートフォリオ作成の取り組みも4年目を迎え、学生の4年間の学びや成長を見ることができた。学生自身にも、卒業時に4年間の学びの蓄積を振り返ってもらおうよう、フィードバックした。

今年度の成果を踏まえ、課題に対しては新たな策を講じながら次年度以降もFD研修の充実を図っていく。